



Cisco Unified Intelligence Center アプリケーション オンラインヘルプ

初版：2013年12月12日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2013 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

Unified Intelligence Center の概要 1

Cisco Unified Intelligence Center の概要 1

ダッシュボード 3

ダッシュボードの概要 3

ダッシュボード マネージャ 4

ダッシュボードの表示 4

ダッシュボードの作成 5

ダッシュボードへの項目の追加 5

スライドショーの実行 7

ダッシュボード固定リンクの表示 8

レポート定義 9

レポート定義 マネージャ 9

ストック レポート定義 10

レポート定義の作成または編集 10

レポート定義のインポート 10

データベース クエリー タイプのレポート定義の作成 11

匿名ブロック タイプのレポート定義の作成 12

ストアド プロシージャ タイプのレポート定義の作成 13

リアルタイム ストリーミング タイプのレポート定義の作成 14

ドリルダウンの作成または編集 16

レポート 17

レポートの概要 18

レポート マネージャ 18

レポートの生成 20

レポート ビューア 20

履歴レポート ビューア 21

ライブ データ レポート ビューア 22

	ストック レポート	23
	レポートの作成または編集	23
	レポートのインポート	24
	レポート用のオンライン ヘルプの設定	25
	レポート、レポート定義、およびカテゴリのエクスポート	26
	レポートの固定リンクの表示	27
	フィルタのタイプ	28
	日付範囲フィルタの設定	29
	値リストまたはコレクション フィルタの設定	30
	プレーン テキストまたは 10 進数フィールドのフィルタの設定	31
	利用可能なビュー	32
	グリッド ビューの作成	32
	ゲージ ビューの作成	33
	グラフ ビューの作成	34
	グループ化	36
	フィールドに対するしきい値インジケータの設定	37
	しきい値の追加および編集	38
	データ ソース	39
	データソースの概要	39
	データ ソース	39
	クエリー ベースのデータ ソース	41
	Java Message Service ベースのデータ ソースの作成または編集	42
	データ ソースのノードの切り替え	44
	値リスト	45
	値リストとコレクションの概要	45
	値リスト	45
	値リストの作成または編集	47
	コレクションの作成または編集	48
	セキュリティ	49
	管理者の概要	49
	セキュリティの概要	50
	ユーザ リスト	50

ユーザの作成	51
ユーザ グループ	53
ユーザ グループの作成	54
ユーザ権限の管理	55
割り当てられているグループ権限	55
割り当てられているユーザ権限	56
権限について	57
ユーザの役割および権限	58
ユーザ グループについて	59
グループと子グループ	60
選択した権限で実行	60
Cisco Unified Intelligence Center の監査証跡ロギング	61
Unified Intelligence Center での監査証跡ロギングの表示	61
監査証跡レポート	62
監査証跡レポート グリッド ビューの現在の各フィールド	62
サンプル監査証跡レポート	63
セキュリティに関するベスト プラクティス	63
スケジューラ	65
スケジューラ リスト	65
レポートのスケジューラの作成	66
スケジューラ済みレポートのメール送信の設定	67
リモート ロケーションへのレポート保存の設定	68



第 1 章

Unified Intelligence Center の概要

- [Cisco Unified Intelligence Center の概要, 1 ページ](#)

Cisco Unified Intelligence Center の概要

Unified Intelligence Center は、履歴およびライブ データのレポートを提供する Web ベースのアプリケーションです。

Unified Intelligence Center の主要機能は次のとおりです。

- ベース ソリューションのデータベースからデータを取得する。ベース ソリューションはどの Contact Center 製品でもかまいません。
- 特定のデータを取得するカスタム クエリーを作成する。
- レポートの視覚表現をカスタマイズする場合。
- レポートに提示するデータをカスタマイズする。
- さまざまなグループの人員に、その役割に基づいて特定のデータを表示できるようにする。



第 2 章

ダッシュボード

- [ダッシュボードの概要, 3 ページ](#)
- [ダッシュボードマネージャ, 4 ページ](#)
- [ダッシュボードの表示, 4 ページ](#)
- [ダッシュボードの作成, 5 ページ](#)
- [ダッシュボードへの項目の追加, 5 ページ](#)
- [スライドショーの実行, 7 ページ](#)
- [ダッシュボード固定リンクの表示, 8 ページ](#)

ダッシュボードの概要

ダッシュボードとは、特定のワークフローや業務に関連するレポートやスケジュール設定されたレポート、付箋、および URL や Web ウィジェットなどの Web ベース要素を表示する Web ページです。

左のパネルの [ダッシュボード] ドロワーをクリックすると、[利用可能なダッシュボード] ページが開きます。（ダッシュボードドロワーを開くことができるのは、ダッシュボード作成者のユーザの役割が割り当てられたユーザだけです）。ダッシュボードドロワーを開いたときに表示されるダッシュボードは、自分と他のユーザによって作成されたダッシュボードです。他のユーザが作成したダッシュボードを表示できるのは、そのユーザによって表示権限が与えられているからです。



(注)

- ダッシュボードはすべて、ダッシュボード作成者が作成する必要があります。
- Unified Intelligence Center には、デフォルトのダッシュボードはインストールされていません。
- ダッシュボード インターフェイスでのあらゆる操作は、ユーザの役割とダッシュボードとカテゴリに対するユーザのオブジェクト権限に基づきます。

ダッシュボード マネージャ

ダッシュボードは、Cisco Unified Intelligence Center 独特の機能であり、Web ページ、ウィジェット、およびレポートなど複数のオブジェクトを、統合された 1 つのビュー内に表示します。

ダッシュボードの表示



(注)

実行権限がある場合、ダッシュボードのカテゴリに対する権限に基づいてダッシュボードを表示できます（カテゴリを表示できない場合は、ダッシュボードに対して実行権限または書き込み権限があっても、ダッシュボードを見つけることはできません）。

ダッシュボードを表示するには、ダッシュボードをクリックするか、ダッシュボードを右クリックして、[表示] を選択します。ダッシュボードで次の操作を実行できます。

- [追加]：ダイアログが表示され、必要な権限を持つユーザはここでダッシュボード項目を追加できます。デフォルトでは、新規ダッシュボードは空です。書き込み権限を持たないダッシュボード作成者は、項目をダッシュボードに追加できますが、追加した項目を保存することはできません。
- [自動更新]：このウィンドウに表示されるデータに関し、更新を有効または無効にすることができます。[自動更新] がオンの場合、データがリアルタイムで更新されます。このチェックボックスがオフの場合、更新しない限りデータは変更されません。



(注)

ダッシュボード固定リンクを表示するウィジェットを手動で更新すると、更新後に、[自動更新] チェックボックスの状態がオンに戻ります。これが発生するのは、ダッシュボードビューアでダッシュボード固定リンクを開いた場合のみです。

- [保存]：ダッシュボードに加えた変更を保存します。
- [更新]：ダッシュボードを更新し、変更を反映します。

- [ポップアウト]: ダッシュボード固定リンクが新しいブラウザで開きます。ポップアウトには、Cisco Unified Intelligence Center の編集機能またはツールバー機能はありません。[x] をクリックして、ウィンドウを閉じます。



(注) 対応するチェックボックスが親ウィンドウでオンになっている場合、ポップアウトウィンドウにあるボックスも自動的にオンになります。このポップアウトウィンドウでF5を押すと、システムによってデータが更新されますが、[自動更新] チェックボックスの状態は変わりません。

- [スライドショー]: これを選択すると、ダッシュボード項目がスライドショーとして表示されます。この機能は、ダッシュボードに項目を追加するまでは無効です。
- [ヘルプ]: オンライン ヘルプを開きます。
- [X]: ダッシュボードを閉じます。

ダッシュボードの作成

ダッシュボードを作成するステップは、次のとおりです。

手順

- ステップ1 [ダッシュボード] タブをクリックします。
- ステップ2 [ダッシュボード] タブで、ダッシュボードを配置するフォルダを右クリックし、[ダッシュボードの作成] を選択します。
- ステップ3 [ダッシュボードの作成] ウィンドウで、ダッシュボードに名前を付けます。
- ステップ4 ユーザに権限を割り当て、[OK] をクリックします。

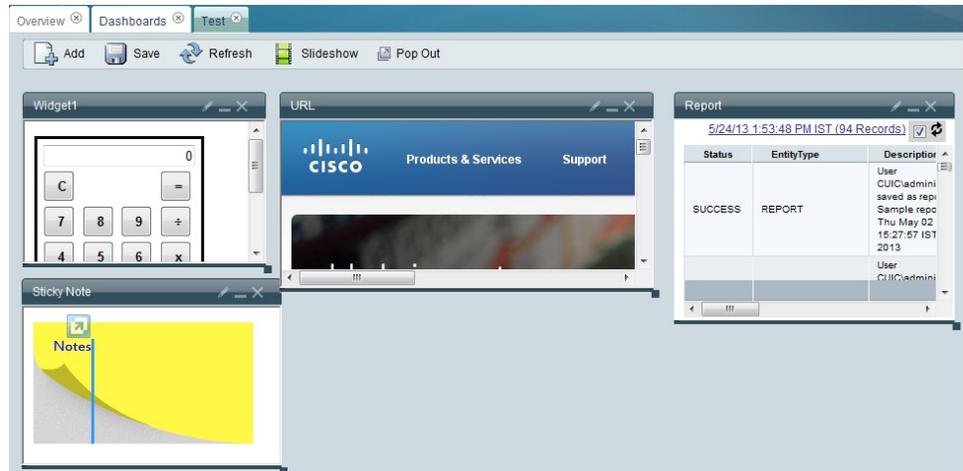
ダッシュボードへの項目の追加

次の項目をダッシュボードに追加することができます。

- [レポート]: 既存のレポートをダッシュボード上に表示します。
- [スケジュール]: スケジュール済みレポートをダッシュボード上に表示します。
- [URL]: Web ページをダッシュボード上に表示します。
- [付箋]: 付箋をダッシュボードに追加します。

- [カスタムウィジェット]: カスタム ウィジェットをダッシュボードに追加します。

図 1: ダッシュボードのウィジェット



次の手順で項目をダッシュボードに追加します。

手順

- ステップ 1 [ダッシュボード] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2 項目を追加する [ダッシュボード] をクリックします。
(注) ダッシュボードを追加してそこに項目を追加することもできます。 [ダッシュボードの作成](#)を参照してください。
- ステップ 3 ダッシュボードで、[追加] をクリックします。
- ステップ 4 [タイトル] ボックスに、項目の名前を入力します。
- ステップ 5 [タイプ] ドロップダウン リストから、追加する項目のタイプを選択します。
- ステップ 6 [サイズ] セクションで、項目の横幅と縦幅をピクセル単位で定義します。
- ステップ 7 [位置] セクションで、項目を配置するダッシュボードの左側からの距離と上部からの距離を定義します。
- ステップ 8 [ダッシュボード項目コンテンツ] セクションで、ステップ 5 で選択したダッシュボード項目を定義します。
レポートを表示するには、次の手順を実行します。
 - a) 矢印をクリックしてフォルダを移動し、ダッシュボード上に表示するレポートまで移動します。
 - b) レポートを選択します。
 - c) [OK] をクリックします。
 スケジュール済みのレポートを表示するには、次の手順を実行します。
 - a) スケジュールを [スケジュール] ボックスから選択します。

(注) [スケジュールの検索] ボックスを使用してスケジュールを検索できません。

b) [OK] をクリックします。

URL を表示するには、次の手順を実行します。

a) [URL] ボックスで、ダッシュボード上に表示する Web ページのアドレスを入力します。

b) [OK] をクリックします。

カスタム ウィジェットを表示するには、次の手順を実行します。

a) [コンテンツ] ボックスで、ダッシュボード上に表示するウィジェットの Java コードを入力します。

b) [OK] をクリックします。

付箋を表示するには、次の手順を実行します。

a) [コンテンツ] ボックスで、付箋のコンテンツを入力します。ボックスを空欄のままにすることもできます。

b) [OK] をクリックします。

スライドショーの実行

新しいウィンドウに追加したダッシュボード項目を表示するには、[スライドショー] 機能を使用します。

次の手順でスライドショー機能を使用します。

手順

- ステップ 1** ツールバーの [スライドショー] をクリックします。これにより、新しいウィンドウでスライドショーが開始します。
- (注) ダッシュボードに項目が1つしかない場合でもスライドショーを実行できますが、変化はしません。
- ステップ 2** 次の操作で、スライドショーの開始、停止、一時停止、および間隔の設定を行います。
- [再生]: スライドショーを開始します。
 - [一時停止]: スライドショーを一時的に停止します。
 - [停止]: スライドショーを停止し、ダッシュボードに戻ります。
 - [間隔の設定]: スライドショーの間隔を設定できるダイアログボックスを開きます。
(注) 最小間隔は 1 秒、最大間隔は 900 秒です。

ダッシュボード固定リンクの表示



(注) 固定ハイパーリンクはWebブラウザからのみアクセスできます。データの取得またはダッシュボードの表示のために、Microsoft Excel などのアプリケーションでアクセスすることはできません。

ダッシュボードへの固定ハイパーリンクを取得するには、以下のステップに従います。

はじめる前に

固定ハイパーリンクは、ダッシュボード自体の作成時に作成されます。

手順

- ステップ 1 左のペインの [ダッシュボード] タブをクリックします。
- ステップ 2 特定のダッシュボードに移動します。
- ステップ 3 [ダッシュボード] を右クリックし、[Htmlリンク] を選択します。
- ステップ 4 [Htmlリンク] をコピーします。これがダッシュボードへの固定ハイパーリンクです。
- ステップ 5 認証なしでハイパーリンクにアクセスできるように設定するには、[未認証アクセスを有効にする] チェックボックスをオンにします。

(注) チェックボックスのオン/オフに係わらず、ハイパーリンクへの初回アクセス時には認証が必要となります。
- ステップ 6 [OK] をクリックします。



第 3 章

レポート定義

- [レポート定義マネージャ, 9 ページ](#)
- [ストック レポート定義, 10 ページ](#)
- [レポート定義の作成または編集, 10 ページ](#)
- [レポート定義のインポート, 10 ページ](#)
- [データベース クエリー タイプのレポート定義の作成, 11 ページ](#)
- [匿名ブロック タイプのレポート定義の作成, 12 ページ](#)
- [ストアードプロシージャ タイプのレポート定義の作成, 13 ページ](#)
- [リアルタイム ストリーミング タイプのレポート定義の作成, 14 ページ](#)
- [ドリルダウンの作成または編集, 16 ページ](#)

レポート定義マネージャ

各レポートには、レポート定義があります。これは、各レポートテンプレートに対し、データがどのようにデータ ソースから取得されるかを表します。

データがどのように（シンプルな MS SQL クエリー、ストアードプロシージャ クエリー、リアルタイム ストリーミングまたは匿名ブロック クエリー）取得されるかを指定するだけでなく、レポート定義には取得されたデータセットも含まれます。これには、フィールド、フィルタ、数式、更新間隔、およびレポートのキー基準フィールドが含まれます。



(注) Unified Intelligence Center では、各レポートテンプレートのストック レポート定義がインストールされます。

レポート定義インターフェイスへのアクセスは、ライセンス タイプとユーザの役割によって制御されています。このドロワーを開くには、プレミアムライセンスとレポート定義作成者の役割が必要です。



(注) レポート定義インターフェイスでのあらゆる操作は、ユーザの役割と、レポート定義やカテゴリに対するユーザのオブジェクト権限に基づきます。

ストック レポート定義

Unified Intelligence Center には、すぐに使用できる事前設定済みのレポート定義が複数付属しています。

新しいレポート定義を作成することも、または既存のレポート定義を変更して新しいレポート定義として保存することもできます。この場合、ストック レポート定義を右クリックして、[名前を付けて保存] を選択するか、ストック レポート定義を編集して、[名前を付けて保存] を選択します。新しい名前でレポート定義を保存したら、それを編集することができます。

すべてのレポート定義は、左のパネルにある [レポート定義] ドロワーにあります。

レポート定義の作成または編集

レポート定義は、左のパネルにある [レポート定義] ドロワーにあります。フォルダを作成してレポート定義を分類できます。

レポート定義は、その中で使用されるクエリーのタイプに基づいています。クエリーのタイプは次のとおりです。

- [データベースクエリー]: これは、ほとんどのレポート定義で広く使用されるシンプルなデータベースクエリーです。データベースクエリーを使用してレポート定義を設定するには、[データベースクエリータイプのレポート定義の作成](#)、(11 ページ) を参照してください。
- [匿名ブロック]: これは、特定のデータを取得するために作成されるクエリーのブロックです。匿名ブロックを使用してレポート定義を設定するには、[匿名ブロックタイプのレポート定義の作成](#)、(12 ページ) を参照してください。
- [ストアドプロシージャ]: これは、特定のデータを取得するために作成される、設定済みのプロシージャです。ストアドプロシージャを使用してレポート定義を設定するには、[ストアドプロシージャタイプのレポート定義の作成](#)、(13 ページ) を参照してください。
- [リアルタイムストリーミング]: これは、リアルタイムでデータをプッシュする Java Message Service (JMS) データソースからデータを取得するために使用する特別なクエリーです。リアルタイムストリーミングのレポート定義を設定するには、[リアルタイムストリーミングタイプのレポート定義の作成](#)、(14 ページ) を参照してください。

レポート定義のインポート

既存の Unified Intelligence Center レポート定義 XML ファイルがある場合は、そのファイルをアプリケーションにインポートしてカスタマイズすることができます。



- (注) インポートするレポート定義で使用するデータソースが、Unified Intelligence Center で設定されていることを確認します。また、レポート定義に値リストが定義されている場合は、値リストで使用されているデータソースが Unified Intelligence Center でも定義されていることを確認します。

次のステップでは既存の Unified Intelligence Center のレポート定義をインポートする方法を説明します。

手順

- ステップ 1** 左のペインの [レポート定義] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2** レポート定義をインポートするフォルダに移動します。
サブフォルダを作成するには、適切なフォルダに移動し、フォルダを右クリックして、[サブカテゴリの作成] を選択します。
- ステップ 3** [定義のインポート] をクリックします。
- ステップ 4** [ファイル名 (XMLファイル)] フィールドで、[参照] をクリックして XML ファイルを選択します。
- ステップ 5** レポート定義 XML ファイルを参照して選択し、[開く] をクリックします。
- ステップ 6** [レポート定義のデータソース] ドロップダウンリストから、レポート定義で使用するデータソースを選択します。
- ステップ 7** [値リストのデータソース] ドロップダウンリストから、レポート定義内で定義されている値リストで使用されるデータソースを選択します。
(注) 値リストのデータソースがレポート定義と同じデータソースを使用しない場合のみ、そのデータソースを選択する必要があります。リアルタイムストリーミングのレポート定義については、値リストのデータソース選択が必須です。
- ステップ 8** [保存先] フィールドで、インポートしたレポート定義を保存するフォルダを参照します。矢印を使用してフォルダを展開します。
- ステップ 9** [インポート] をクリックします。

データベースクエリタイプのレポート定義の作成

データベースクエリを使用してレポート定義を作成するには、以下のステップに従います。

手順

- ステップ 1** 左のペインの [レポート定義] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2** レポート定義を作成するカテゴリに移動します。

(注) サブカテゴリを作成するには、適切なカテゴリに移動し、カテゴリを右クリックして、[サブカテゴリの作成] を選択します。

ステップ 3 カテゴリを右クリックし、[レポート定義の作成] を選択します。

ステップ 4 [名前] フィールドに、レポート定義の名前を入力します。

ステップ 5 [説明] フィールドに、レポート定義の説明を入力します。

ステップ 6 適切な権限を割り当て、[OK] をクリックします。

ステップ 7 [クエリタイプ] ドロップダウン リストから、[データベースクエリ] を選択します。

ステップ 8 [データソース] ドロップダウン リストから、適切なデータ ソースを選択します。

(注) 選択したデータ ソースの [データソースの状態] が [オンライン] として表示されることを確認します。

ステップ 9 [クエリ] フィールドに、データベース クエリを入力します。

ステップ 10 [フィールドの作成] をクリックしてクエリを検証し、データベースからフィールドを取得します。

ステップ 11 [フィールド] タブで、既存のフィールドを設定するか、新規フィールドをレポート定義に追加します。

ステップ 12 [プロパティ] をクリックします。

ステップ 13 [バージョン] にバージョン番号を、[作成者] に作成者名を入力します。

ステップ 14 [キー基準フィールド] ドロップダウン リストから、キー基準の役割を果たすフィールドを選択します。

ステップ 15 [履歴] チェックボックスをオンにして 900 ミリ秒を超える更新間隔を維持します。

ステップ 16 [履歴キーフィールド] ドロップダウン リストから、履歴キーフィールドの役割を果たすフィールドを選択します。

(注) このフィールドは、[履歴] チェックボックスがオンの場合にのみ使用可能になります。

ステップ 17 [保存] をクリックします。

匿名ブロックタイプのレポート定義の作成

匿名ブロック クエリ タイプを使用してレポート定義を作成するには、ストアードプロシージャの場所が Unified Intelligence Center でアクセスできることを確認します。

ストアードプロシージャを使用してレポート定義を作成するには、以下のステップに従います。

手順

ステップ 1 左のペインの [レポート定義] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 レポート定義を作成するカテゴリに移動します。

(注) サブカテゴリを作成するには、適切なカテゴリに移動し、カテゴリを右クリックして、[サブカテゴリの作成] を選択します。

- ステップ 3** カテゴリを右クリックし、[レポート定義の作成] を選択します。
- ステップ 4** [名前] フィールドに、レポート定義の名前を入力します。
- ステップ 5** [説明] フィールドに、レポート定義の説明を入力します。
- ステップ 6** 適切な権限を割り当て、[OK] をクリックします。
- ステップ 7** [クエリタイプ] ドロップダウンリストから、[匿名ブロック] を選択します。
- ステップ 8** [データソース] ドロップダウンリストから、適切なデータ ソースを選択します。
(注) 選択したデータ ソースの [データソースの状態] が [オンライン] として表示されることを確認します。
- ステップ 9** [匿名ブロック] フィールドに、パラメータを組み込むデータベース クエリを入力します。
- ステップ 10** [パラメータの作成] をクリックすると、パラメータのリストが表示されます。
- ステップ 11** [パラメータ] セクションで、[値] 列に、各パラメータの値を入力します。これらの値はクエリでパラメータ変数に置換されます。
- ステップ 12** [フィールドの作成] をクリックしてクエリを検証し、データベースからフィールドを取得します。
(注) パラメータのいずれかのプロパティを編集するには、[パラメータ] タブをクリックします。
- ステップ 13** [フィールド] タブで、既存のフィールドを設定するか、新規フィールドをレポート定義に追加します。
- ステップ 14** [プロパティ] をクリックします。
- ステップ 15** [バージョン] にバージョン番号を、[作成者] に作成者名を入力します。
- ステップ 16** [履歴] チェックボックスをオンにして 900 ミリ秒を超える更新間隔を維持します。
- ステップ 17** [履歴キーフィールド] ドロップダウンリストから、履歴キー フィールドの役割を果たすフィールドを選択します。
(注) このフィールドは、[履歴] チェックボックスがオンの場合にのみ使用可能になります。
- ステップ 18** [保存] をクリックします。

ストアド プロシージャ タイプのレポート定義の作成

ストアド プロシージャ クエリ タイプを使用してレポート定義を作成するには、ストアド プロシージャの場所が Unified Intelligence Center でアクセスできることを確認します。

ストアド プロシージャを使用してレポート定義を作成するには、以下のステップに従います。

手順

- ステップ 1** 左のペインの [レポート定義] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2** レポート定義を作成するカテゴリに移動します。

- (注) サブカテゴリを作成するには、適切なカテゴリに移動し、カテゴリを右クリックして、[サブカテゴリの作成] を選択します。
- ステップ 3** カテゴリを右クリックし、[レポート定義の作成] を選択します。
- ステップ 4** [名前] フィールドに、レポート定義の名前を入力します。
- ステップ 5** [説明] フィールドに、レポート定義の説明を入力します。
- ステップ 6** 適切な権限を割り当て、[OK] をクリックします。
- ステップ 7** [クエリタイプ] ドロップダウン リストから、[ストアドプロシージャ] を選択します。
- ステップ 8** [データソース] ドロップダウン リストから、適切なデータ ソースを選択します。
(注) 選択したデータ ソースの [データソースの状態] が [オンライン] として表示されることを確認します。
- ステップ 9** [ストアドプロシージャ] フィールドに、ストアドプロシージャの名前を入力します。
- ステップ 10** [パラメータの作成] をクリックすると、パラメータのリストが表示されます。
- ステップ 11** [値] 列に、各パラメータの値を入力します。これらの値はクエリでパラメータ変数に置換されます。
- ステップ 12** [フィールドの作成] をクリックしてクエリを検証し、データベースからフィールドを取得します。
(注) パラメータのいずれかのプロパティを編集するには、[パラメータ] タブをクリックします。
- ステップ 13** [フィールド] タブで、既存のフィールドを設定するか、新規フィールドをレポート定義に追加します。
- ステップ 14** [プロパティ] をクリックします。
- ステップ 15** [バージョン] にバージョン番号を、[作成者] に作成者名を入力します。
- ステップ 16** [キー基準フィールド] ドロップダウン リストから、キー基準の役割を果たすフィールドを選択します。
- ステップ 17** [履歴] チェックボックスをオンにして 900 ミリ秒を超える更新間隔を維持します。
- ステップ 18** [履歴キーフィールド] ドロップダウン リストから、履歴キーフィールドの役割を果たすフィールドを選択します。
(注) このフィールドは、[履歴] チェックボックスがオンの場合のみ使用可能になります。
- ステップ 19** [保存] をクリックします。

リアルタイムストリーミングタイプのレポート定義の作成

リアルタイムストリーミングクエリタイプのレポート定義を作成するには、Java Message Service (JMS) ベースのデータソースが、Cisco Unified Intelligence Center ですでに設定されている必要があります。

JMS ベースのデータソースを使用してレポート定義を作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 左のパネルにある [レポート定義] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2** レポート定義を作成するカテゴリに移動します。
(注) サブカテゴリを作成するには、適切なカテゴリに移動し、カテゴリを右クリックして、[サブカテゴリの作成] を選択します。
- ステップ 3** カテゴリを右クリックし、[レポート定義の作成] を選択します。
- ステップ 4** [名前] フィールドに、レポート定義の名前を入力します。
- ステップ 5** [説明] フィールドに、レポート定義の説明を入力します。
- ステップ 6** 適切な権限を割り当て、[OK] をクリックします。
- ステップ 7** [クエリーのタイプ] ドロップダウン リストから、[リアルタイムストリーミング] を選択します。
- ステップ 8** [データソース] ドロップダウン リストから、JMS ベースのデータ ソースを選択します。
(注) 選択したデータ ソースの [データソースの状態] に [オンライン] と表示されていることを確認します。
- ステップ 9** [トピックの取得] をクリックして、オブジェクトのリストを表示します。
- ステップ 10** 目的のトピックと関連付けられているフィールドを選択します。
(注) レポート定義に選択できるトピックは 1 つだけです。
(注) フィールドにアスタリスク (*) が付いている場合、トピックキーフィールドであることを示します。
フィールドにプラス記号 (+) が付いている場合、オブジェクトキーフィールドであることを示します。
- ステップ 11** [フィールド] タブで、既存のフィールドを設定するか、新しいフィールドをレポート定義に追加します。
(注) ライブ データ レポートの場合、フィルタ フィールドは利用できません。
- ステップ 12** [プロパティ] をクリックします。
- ステップ 13** [バージョン] 番号と [作成者] 名を入力します。
- ステップ 14** [保存] をクリックします。
-

ドリルダウンの作成または編集

手順

- ステップ 1** 左のパネルにある [レポート定義] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2** ドリルダウンを作成するレポートのレポート定義を開きます。
- ステップ 3** [フィールド] タブをクリックして、ドリルダウンの対象となるフィールドを選択します。
- ステップ 4** [ドリルダウン] をクリックします。
[すべてのドリルダウン] パネルが表示されます。そのフィールドにすでに設定されているドリルダウンがある場合、そのすべてが表示されます。
(注) 既存のドリルダウンを編集するには、ドリルダウンを選択して [編集] をクリックします。
- ステップ 5** [作成] をクリックします。
- ステップ 6** ドリルダウンの名前を入力します。
(注) 匿名ブロックまたはストアードプロシージャに基づくレポートはドリルダウンできません。
- ステップ 7** レポート名の横にあるラジオ ボタンをクリックして、レポートを選択します。
そのレポートのすべてのフィールドが表示されたパネルが開きます。
- ステップ 8** フィールドを強調表示して、[編集] をクリックします。
- ステップ 9** フィルタの値を編集して [OK] をクリックします。
-



第 4 章

レポート

- [レポートの概要, 18 ページ](#)
- [レポート マネージャ, 18 ページ](#)
- [レポートの生成, 20 ページ](#)
- [レポート ビューア, 20 ページ](#)
- [ストック レポート, 23 ページ](#)
- [レポートの作成または編集, 23 ページ](#)
- [レポートのインポート, 24 ページ](#)
- [レポート用のオンライン ヘルプの設定, 25 ページ](#)
- [レポート、レポート定義、およびカテゴリのエクスポート, 26 ページ](#)
- [レポートの固定リンクの表示, 27 ページ](#)
- [フィルタのタイプ, 28 ページ](#)
- [日付範囲フィルタの設定, 29 ページ](#)
- [値リストまたはコレクション フィルタの設定, 30 ページ](#)
- [プレーンテキストまたは 10 進数フィールドのフィルタの設定, 31 ページ](#)
- [利用可能なビュー, 32 ページ](#)
- [グリッド ビューの作成, 32 ページ](#)
- [ゲージ ビューの作成, 33 ページ](#)
- [グラフ ビューの作成, 34 ページ](#)
- [グループ化, 36 ページ](#)
- [フィールドに対するしきい値インジケータの設定, 37 ページ](#)
- [しきい値の追加および編集, 38 ページ](#)

レポートの概要

レポートには、レポート定義によって返されたデータが表示されます。このデータは、データベースクエリから抽出され、グリッド、グラフ、またはゲージのレポートビューで表示できます。

シスコでは、Unified Intelligence Center で使用できるストックテンプレートを用意しています。シスコの Web サイトからストックレポートをインポートし、ビジネス要件に応じてカスタマイズできます。ストックレポートには、デフォルトのグリッドビューが1つあります。一部のストックレポートにはグラフビューもあります。

レポート作成者ユーザの役割を持つユーザは、[レポート] ドロワーをクリックして、[利用可能なレポート] ページを開くことができます。



(注) レポート インターフェイスでのあらゆる操作は、レポートおよびカテゴリに対するユーザの役割とオブジェクト権限に基づきます。

レポート マネージャ

Unified Intelligence Center のレポート マネージャを使用してレポートの場所とレポートがあるフォルダの階層を表示します。新しいフォルダおよびサブフォルダ（ユーザインターフェイスではサブカテゴリと呼ばれる）を作成してレポートを整理できます。中に入っているすべてのレポートごと、フォルダ全体をエクスポートすることもできます。

レポート マネージャでは、次の操作を実行できます。

表 1: レポート マネージャ

操作	説明
レポート レベルの操作	
[実行]	レポートを生成します。
[スケジュール]	[レポートスケジューラ]（レポートのスケジュールの作成、 66 ページ ） ページに直接アクセスして、後で実行したり、定期的に行うレポートのスケジュールを組むことができます。
[編集]	レポートエディタを表示します。レポートエディタの詳細については、『Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide, Release 10.0(1)』を参照してください。このガイドは、 http://www.cisco.com/en/US/products/ps9755/products_user_guide_list.html から入手できます。

操作	説明
[名前を付けて保存]	レポートのコピーを別の場所に、別の名前で保存します。 (注) デフォルトでは、Cisco Unified Intelligence Center のレポートカテゴリの下にサブカテゴリを作成する権限がレポート設定ユーザにはありません。権限を取得するには、管理者にお問い合わせください。
[ビューの編集]	利用可能なビューを表示します。新規ビューの作成または既存のビューの編集が行えます。 (注) 権限がある場合のみビューを編集できます。ビューの編集の詳細については、『Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide』を参照してください。このガイドは、 http://www.cisco.com/en/US/products/ps9755/products_user_guide_list.html から入手できます。
[エクスポート]	フォルダまたはレポートをコンピュータにエクスポートします。 (注) フォルダをエクスポートする場合は、フォルダ内のすべてのレポートがエクスポートされます。
[削除]	フォルダまたはレポートを削除します。 (注) スtock フォルダまたはstock レポートは削除できません。
サブカテゴリ レベルの操作	
[サブカテゴリの作成]	サブフォルダを作成します。 (注) ルート レベルのフォルダにも適用できません。
[削除]	フォルダまたはレポートを削除します。 (注) スtock フォルダまたはstock レポートは削除できません。
[名前の変更]	フォルダまたはレポートの名前を変更します。 (注) スtock フォルダまたはstock レポートの名前は変更できません。 (注) ルート レベルのフォルダにも適用できません。
[レポートの作成]	選択したフォルダで新規レポートを作成します。 stock レポートはすぐに使用できる事前設定レポートです。これらのレポートのコピーを作成して編集することができます。詳細については、個別のレポートの章を参照してください。 (注) ルート レベルのフォルダにも適用できません。

操作	説明
[権限]	読み取り権限/書き込み権限をフォルダに設定します。
[エクスポート]	フォルダまたはレポートをコンピュータにエクスポートします。 (注) フォルダをエクスポートする場合は、フォルダ内のすべてのレポートがエクスポートされます。
[レポートのインポート]	既存の Unified Intelligence Center レポートをインポートし、Unified Intelligence Center のこのインスタンスに保存します。 (注) すべてのフォルダ レベル (ルート、サブカテゴリ、およびレポート) に該当します。
[更新]	レポート マネージャを更新します。 (注) すべてのフォルダ レベル (ルート、サブカテゴリ、およびレポート) に該当します。

レポートの生成

手順

-
- ステップ 1** [レポート] タブで、実行するレポートを選択します。
- ステップ 2** レポートのフィルタを選択します。
(注) フィルタを省略するようにレポートが設定されている場合は、レポートが生成されます。 [フィルタ] ボタンを使用して、使用可能なフィルタを設定することもできます。
- ステップ 3** [実行] をクリックします。
生成されたレポートが [レポートビューア] ページに表示されます。 [レポートビューア](#) を参照してください。
-

レポート ビューア

レポートを実行すると、そのレポートは [レポート ビューア] に表示されます。グリッド、グラフ、またはゲージのうち、どのビュー (データのプレゼンテーション) で表示されるかに基づいて、そのコンテンツは異なります。このページのレポート ビューは変更できます。

[レポート ビューア] のタイプには、以下の 2 つがあります。

履歴レポートビューア

Cisco Unified Intelligence Center 履歴レポートビューアでは、次の操作を実行できます。

- レポート内のデータへのフィルタ適用
- グリッドからグラフまたは円グラフへのレポートビューの変更



(注) 現在、レポートに使用できるビューからのみ選択することができます。

- 現在のビューの編集

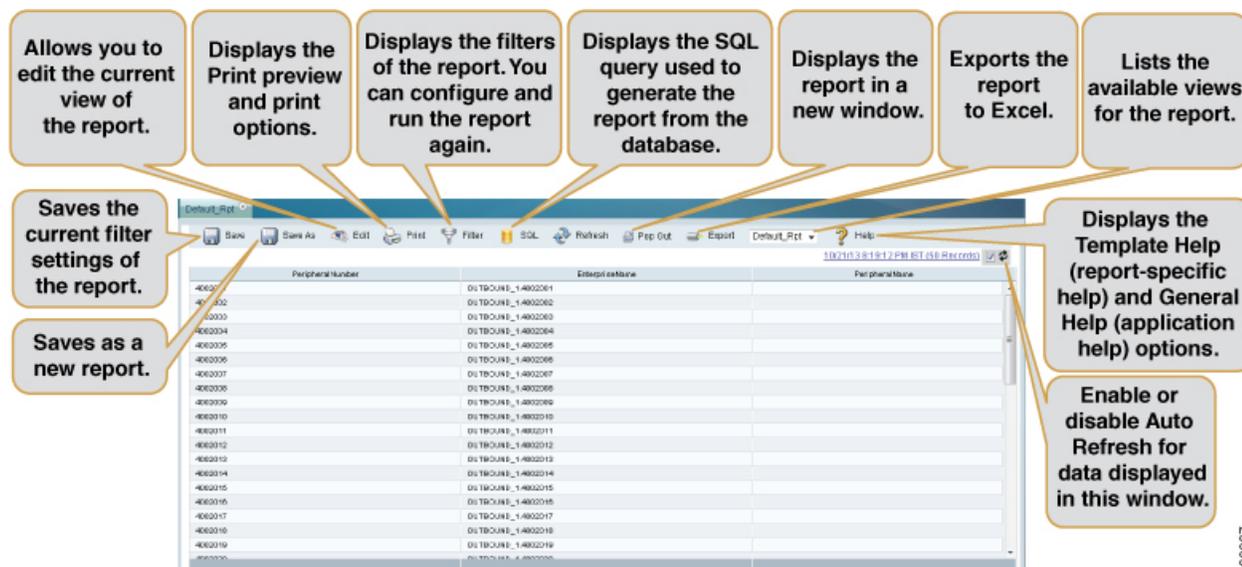


(注) 現在のビューを編集したり、レポートの新規ビューを作成したりするには、『*Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide, Release 10.0(1)*』を参照してください。このガイドは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps9755/products_user_guide_list.html から入手できます。

- レポートの更新
- レポートの印刷
- レポートのエクスポート
- レポートの生成に使用された SQL クエリーの表示
- レポート専用で作成されたヘルプの表示

次の図は履歴レポートビューアの例を示しています。

図 2: 履歴レポートビューア



390067

ライブデータ レポートビューア

ライブデータ レポートは、リアルタイムに更新されるデータのストリームです。Cisco Unified Intelligence Center ライブデータ レポートビューアでは、次の操作を実行できます。

- 同じレポートを複数のグリッドビューで表示できます。また、グリッドレポートの列サイズを動的に変更することができます。

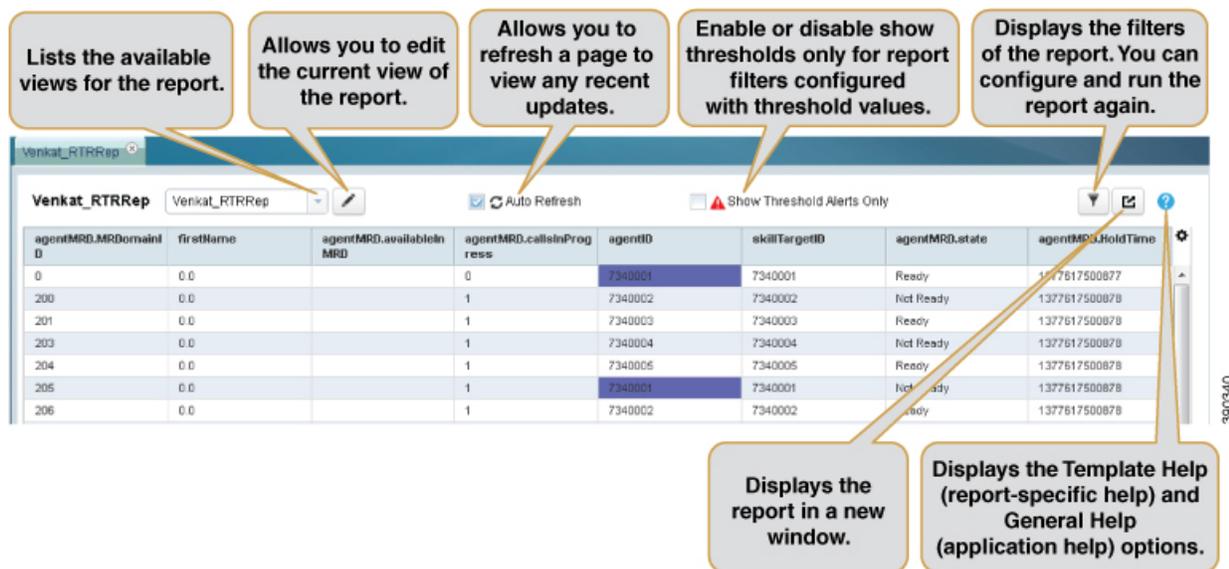


(注) ライブデータ レポートでは、グリッドビューのみがサポートされます。

- ([歯車]) アイコンを使用してグリッドに列を追加または削除することができます。
- [自動更新]: [自動更新] チェックボックスがオンの場合、リアルタイム データが読み込まれると、レポート内のデータがシステムによって動的に更新されます。このチェックボックスがオフの場合、新しいデータがレポートで利用可能になると、「新規更新が利用可能」というアラートメッセージが表示されます。ライブデータ レポートでは、3 秒ごとにリアルタイム データが提供されます。
- [しきい値のみ表示]: [しきい値のみ表示] チェックボックスがオンの場合、しきい値が設定されたデータのみがレポートに表示されます。デフォルトでは、すべてのレポートでこのチェックボックスはオフになっています。
- [ポップアウト]: レポートが新しいブラウザで開きます。ポップアウトに、[自動更新] オプションと [しきい値のみ表示] オプションが表示されます。

- [ヘルプ] : Unified Intelligence Center レポーティングのヘルプまたはレポート テンプレートのフィールドのヘルプを選択できるドロップダウンメニューが開きます。

図 3: ライブ データ レポート ビューア



ストック レポート

Unified Intelligence Center には、すぐに使える事前設定レポートがバンドルされています。これらのレポートのコピーを作成して編集することもできます。

シスコでは、新しい機能のテンプレートとして使用できる新規ストック レポートを不定期にリリースしています。これらのレポートは Cisco.com からダウンロードできます。

すべてのレポートは、左のパネルの [レポート] ドロワーにあります。

レポートの作成または編集の詳細については、[レポートの作成または編集](#)、(23 ページ) を参照してください。

レポートの作成または編集

以下の手順は、新規レポートの作成方法、または既存のレポートの編集方法を説明したものです。

はじめる前に

すべてのレポートは、左のパネルにある [レポート] ドロワーにあります。

[レポート] フォルダ内に複数のフォルダを作成して、レポートを分類できます。

手順

-
- ステップ 1** 左のパネルで [レポート] タブをクリックします。
- ステップ 2** レポートを作成するフォルダに移動します。
サブフォルダを作成するには、適切なフォルダに移動し、フォルダを右クリックして、[サブカテゴリの作成] を選択します。
- ステップ 3** レポートを作成するフォルダを右クリックして、[レポートの作成] を選択します。
(注)
既存のレポートを編集するには、レポートに移動し、レポートを右クリックして、[編集] を選択します。
レポートのヘルプ ページを設定するには、[レポート用のオンラインヘルプの設定](#)、(25 ページ) を参照してください。
- ステップ 4** [レポートの作成] ウィンドウで、[名前] フィールドにレポートの名前を入力します。
(注) レポートの名前は Unified Intelligence Center 内で固有の名前にする必要があります。
- ステップ 5** [説明] フィールドに、レポートの簡単な説明を入力します。
- ステップ 6** [レポート定義] セクションで、適切なレポート定義を選択します。矢印を使用してフォルダを展開します。
- ステップ 7** [権限] セクションで、適切な権限を割り当てます。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。
-

レポートのインポート

既存のレポートがある場合は、そのレポートと関連ヘルプファイルを Unified Intelligence Center にインポートすることができます。インポートする前に、レポートを ZIP 形式に圧縮する必要があります。



-
- (注) Java Message Service (JMS) データ ソースのターゲットがオフラインの場合でも、Unified Intelligence Center にライブデータをインポートできます。レポートを実行するには、JMS データ ソース接続がオンラインになっていることを確認します。
-



-
- (注) カスタマイズされたレポートでは、レポートをインポートする前に、値リストとレポート定義のバージョン番号を更新する必要があります。更新しないと、インポートによって既存のデフォルト レポートが上書きされません。
-

レポートをインポートするには、以下のステップに従います。

手順

-
- ステップ 1** 左のペインの [レポート] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2** レポートをインポートするフォルダに移動します。
(注) サブフォルダを作成するには、適切なフォルダに移動し、フォルダを右クリックして、[サブカテゴリの作成] を選択します。
- ステップ 3** [レポートのインポート] をクリックします。
- ステップ 4** [ファイル名 (XMLまたはZIPファイル)] フィールドで、[参照] をクリックします。
- ステップ 5** XML または圧縮レポート ファイルを参照して選択し、[開く] をクリックします。
(注) インポートするレポートで使用されているレポート定義が現在 Unified Intelligence Center で定義されていない場合は、インポートする前に、レポート定義 XML ファイルがバンドルされていることを確認します。
- ステップ 6** [レポート定義のデータソース] ドロップダウン リストから、レポート定義で使用されるデータソースを選択します。
(注) このフィールドは、インポートするレポートのレポート定義が現在 Unified Intelligence Center で定義されていない場合にのみ表示されます。
- ステップ 7** [値リストのデータソース] ドロップダウン リストから、レポート定義内で定義済みの値リストで使用されるデータソースを選択します。
(注) 値リストのデータソースがレポート定義と同じデータソースを使用しない場合にのみ、そのデータソースを選択する必要があります。リアルタイム ストリーミングのレポート定義については、値リストのデータソース選択が必須です。
- ステップ 8** [保存先] フィールドで、インポートしたレポートを保存するフォルダを参照します。矢印キーを使用してフォルダを展開します。
- ステップ 9** [インポート] をクリックします。
-

レポート用のオンラインヘルプの設定

各 Unified Intelligence Center レポートには、専用のヘルプ ページが個別にあります。ヘルプ ページは別の場所に保存して、レポートをそこにポイントすることも、レポートと一緒に作成してアップロードすることもできます。

ヘルプ ページをアップロードする場合は、HTML 形式の単一 HTML ページで構成する必要があります。HTML ページのコンテンツは、画像を含むリッチテキストにすることができます。ビデオやその他のインタラクティブ コンテンツは現在サポートされていません。

レポート用のヘルプ ページを設定するには、以下のステップに従います。

手順

- ステップ 1 左のペインの [レポート] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2 [レポート] タブで、オンライン ヘルプを割り当てる対象のレポートを右クリックし、[編集] を選択します。
- ステップ 3 [オンラインヘルプ] セクションで、[ヘルプファイルの選択] を選択します。
(注) ヘルプ コンテンツを別にホストする場合は、[URL] を選択し、ヘルプ コンテンツのホストの場所を入力してステップ 6 に進みます。
- ステップ 4 [ヘルプファイルをアップロード] をクリックします。
- ステップ 5 [アップロードするファイルの選択] ウィンドウで、HTML または ZIP ファイルを選択し、[開く] をクリックします。
- ステップ 6 [保存] をクリックします。

レポート、レポート定義、およびカテゴリのエクスポート

Unified Intelligence Center 内のカスタム レポート、レポート定義、レポートのカテゴリをエクスポートすることができます。レポートとレポートのカテゴリは ZIP 形式でエクスポートされ、レポート定義は単一の XML ファイルでエクスポートされます。

カテゴリをエクスポートする場合は、カテゴリ内のレポートを ZIP 形式でグループ化します。グループ化は、レポート定義や値リストで使用されるデータ ソースごとに行われます。

カテゴリをエクスポートするには、カテゴリを右クリックし、[エクスポート] をクリックします。必要に応じ、ZIP ファイルを保存するか、または開きます。



(注) 各値リストが異なるデータ ソースをポイントする複数の値リストが含まれるレポート定義はエクスポートされません。

値リストを含むレポート定義をエクスポートするには、レポート定義内のすべての値リストが同じデータ ソースをポイントすることを確認します。

同じことがカテゴリにも該当します。カテゴリをエクスポートする際は、カテゴリ内のすべての値リストが同じデータ ソースをポイントすることを確認します。

レポートをエクスポートする場合は、次の項目がエクスポートされます。

- レポート
- レポート定義
- 値リスト

- ビュー
- レポート エディタで定義された環境設定
- しきい値
- 権限
- オンラインヘルプ（バンドルされていない場合は、空のフォルダが ZIP ファイル内に作成されます）

次の項目はレポートとともにエクスポートされません。

- レポート フィルタ
- コレクション

レポートまたはレポート定義をエクスポートするには、以下のステップに従います。

手順

- ステップ 1** 左のペインで、[レポート] または [レポート定義] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2** エクスポートするレポートまたはレポート定義を参照します。
- ステップ 3** レポートまたはレポート定義を右クリックし、[エクスポート] を選択します。
- ステップ 4** 必要に応じて、レポートまたはレポート定義の名前を変更できますが、拡張子は変更しないでください。
- ステップ 5** [OK] をクリックします。
- ステップ 6** [ファイルのダウンロード] ウィンドウで、[保存] をクリックしてレポートまたはレポート定義をエクスポートする場所を指定します。
- ステップ 7** レポートまたはレポート定義を保存するフォルダを参照します。
- ステップ 8** [保存] をクリックします。

レポートの固定リンクの表示

レポートへの固定リンクは、レポートの作成時に作成されます。レポートへの固定リンクを取得するには、次のステップに従います。

手順

-
- ステップ 1** 左のペインの [レポート] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2** 特定のレポートに移動します。
- ステップ 3** レポートを右クリックし、[ビューの編集] を選択します。
- ステップ 4** ビューを選択し、[リンク] をクリックします。
- ステップ 5** 認証なしで固定リンクにアクセスできるように設定するには、[未認証アクセスを有効にする] チェックボックスをオンにします。
- (注)
- チェックボックスのオン/オフに係わらず、固定リンクへの初回アクセス時には認証が必要となります。
 - ライブ データ レポートでは、[未認証アクセスを有効にする] チェックボックスは無効です。
- ステップ 6** 必要なハイパーリンクを選択します。
- ステップ 7** [OK] をクリックします。
-

フィルタのタイプ

基本フィルタと詳細フィルタの2つのフィルタ タイプから選択することができます。

- **基本フィルタ** : [基本フィルタ] タブでは、デフォルトフィルタに定義された、一部の選択されたフィールドのレポート データにフィルタを適用できます。
- **詳細フィルタ** : [詳細フィルタ] タブでは、レポート内で利用できるすべてのフィールドのレポート データにフィルタを適用できます。



- (注) 個々のニーズに合わせて新しいフィルタのフィルタ基準を適用する方法については、『*Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide*』を参照してください。
-

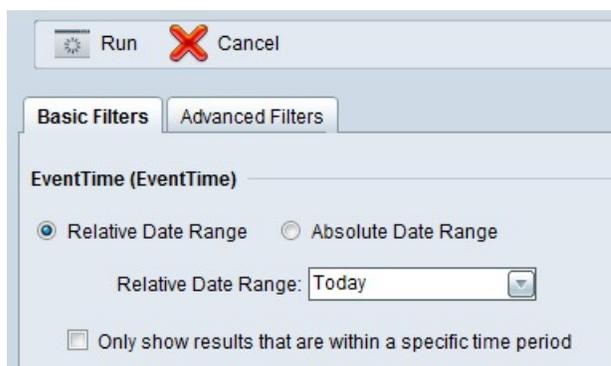
日付範囲フィルタ、値リストまたはコレクションフィルタの設定の詳細については、以下のページを参照してください。

- [日付範囲フィルタの設定](#), (29 ページ)
- [値リストまたはコレクションフィルタの設定](#), (30 ページ)
- [プレーン テキストまたは 10 進数フィールドのフィルタの設定](#), (31 ページ)

日付範囲フィルタの設定

[フィルタ] ページを表示するには、レポートをクリックします。

図 4: 日付範囲フィルタ



手順

- ステップ 1** 日付範囲のタイプを選択します。次のオプションを使用できます。
 - [相対的な日付範囲]: ここで使用可能なオプションはあらかじめ定義されています。[相対的な日付範囲] ドロップダウンリストを使用して、[今日]、[前日]、[今週]、[前週]、[今月]、[前月]、[年度累計]、または [前年] のいずれかを選択します。
 - [絶対的な日付範囲]: カレンダー アイコンをクリックして、[開始日] と [終了日] を選択します。
- ステップ 2** 特定の時間内で利用できるデータを表示する場合は、[特定時間内の結果のみを表示] チェックボックスをオンにします。この時間間隔は、前のステップで選択したそれぞれの日に適用されます。デフォルトの時間間隔は、午前 12:00 から午後 11:59 です。

(注) 匿名ブロックのクエリタイプに基づいたレポートの場合、デフォルトで [特定時間内の結果のみを表示] オプションが表示されます。チェックボックスとしては表示されません。また、この手順のステップ 3 はそのようなレポートには使用できません。クエリタイプの詳細については、『Cisco Unified Intelligence Center Report Customization Guide, Release 10.0(1)』を参照してください。このガイドは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps9755/products_user_guide_list.html から入手できます。
- ステップ 3** データを必要とする特定の曜日を選択するには、[週の特定期日の結果のみを表示] チェックボックスをオンにします。

(注) このオプションは、ステップ 1 で選択した時間間隔が 1 日を超える範囲の場合のみに利用できます。
- ステップ 4** [実行] をクリックします。

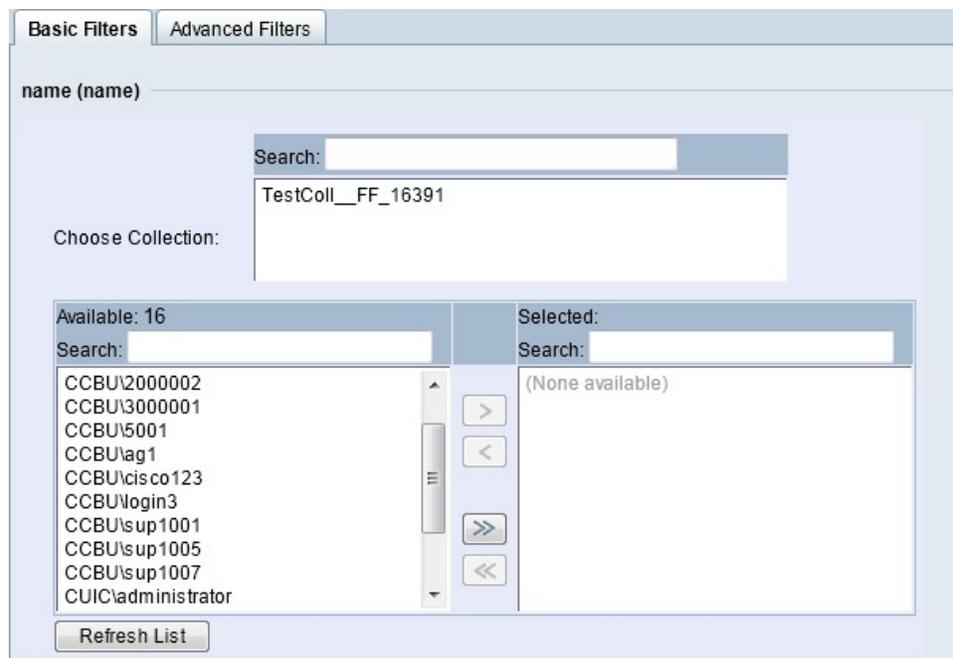
値リストまたはコレクションフィルタの設定

[フィルタ] ページを表示するには、レポートをクリックします。



(注) 定義された値リストにアクセスする権限がユーザにある場合にのみ、[フィルタ] ページの [リストの更新] が有効になります。

図 5: コレクション フィルタ



手順

- ステップ 1** [コレクションの選択] または [値リストの選択] ボックスから、コレクションまたは値リストを選択します。
ヒント [検索] ボックスを使用して、値リストまたはコレクションを検索します。
 コレクションまたは値リストの項目が、[選択可能] リストに表示されます。
- ステップ 2** [選択可能] リストから項目を選択し、[選択済み] リストに移動します。
- ステップ 3** 検索を繰り返して、選択した項目のリストに追加できます。さらに、複数のコレクションまたは値リストから [選択済み] リストに項目を追加することもできます。

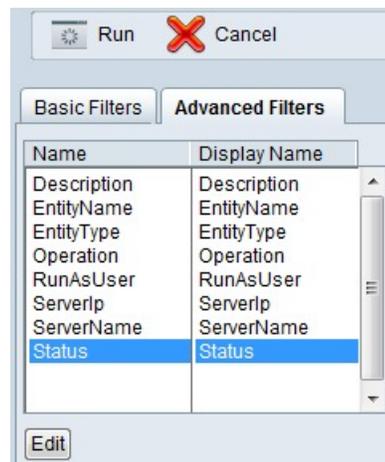
プレーンテキストまたは10進数フィールドのフィルタの設定

[フィルタ] ページを表示するには、レポートを生成してから [フィルタ] をクリックします。



(注) デフォルトのフィルタを編集する場合も、同じ手順を実行します。

図 6: 詳細フィルタ



手順

- ステップ 1 [フィルタ] ページで、[詳細フィルタ] タブをクリックします。
- ステップ 2 フィルタを選択します。
- ステップ 3 [編集] をクリックし、フィルタ オプションを表示します。
- ステップ 4 [次の条件でフィルタ] を選択します。
- ステップ 5 [演算子] ドロップダウンリストを使用して、条件を選択します。
(注) [次のパターンと一致] 演算子を選択した場合、いずれかの Microsoft SQL ワイルドカードパターンを使用して、データをフィルタ処理できます。ワイルドカード文字の % が、データのフィルタ処理に使用されるすべての文字列の先頭と末尾に追加されます。
- ステップ 6 [値] フィールドに、フィールド内のデータのフィルタ処理の基準となる値を入力します。
- ステップ 7 [実行] をクリックします。

利用可能なビュー

レポートを右クリックし、[ビューの編集]を選択すると、利用可能なビューが表示されます。レポートに現在関連付けられている利用可能なビューと対応する説明のリストが表示され、ここで新しいビューを作成したり、既存のビューを編集したりすることができます。

Cisco Unified Intelligence Center では、次の3つのビュータイプがサポートされています。

- グリッド
- グラフ
- ゲージ



(注) ビューを削除すると、フィルタを使用して作成されたあらゆる変数パラメータを含む、そのビューに作成された固定リンクが削除されます。Cisco Unified Intelligence Center によって、「このレポートは削除されました。このページを閉じるか、キャンセルしてください」という固定リンク実行エラーが返されます。

[ビューの編集] ページで、次の操作を実行できます。

- [作成] または [編集] : グラフ、ゲージ、グリッドを作成または編集します。
- [削除] : 確認が表示され、ビューが削除されます。すべてのレポート ビューを削除しないでください。ビューのないレポートは実行できません。
- [更新] : このページを更新し、このレポートデータセットのビューに対して他のユーザによって行われた変更を表示します。
- [リンク] : [未認証アクセスを有効にする] チェックボックスをオンにすると、固定リンクを使用してレポートにアクセスするユーザを未認証モードで許可します。デフォルトでは、[未認証アクセスを有効にする] チェックボックスはオフです。
レポートへの固定リンクを取得するには、[レポートの固定リンクの表示](#)、(27 ページ) を参照してください。
- [ヘルプ] : ページのオンライン ヘルプを開きます。

グリッド ビューの作成

グリッドとは、行と列から構成される表形式のデータ表現です。デフォルトでは、すべてのシスコストックレポートにグリッドビューがあります。さらに、ストックレポートのグリッドビューを追加作成することもできます。カスタムレポートの場合、デフォルトグリッドは、レポート定義の SQL クエリーから作成されます。



(注) グループ化はライブ データ レポートではサポートされていません。

以下はグリッド ビューを作成する手順です。

手順

- ステップ 1 [レポート] に移動します。
- ステップ 2 [レポート] をクリックして、[利用可能なレポート] を表示します。
- ステップ 3 [レポート] フォルダを展開します。
- ステップ 4 適切なフォルダでレポートを探します。
- ステップ 5 レポートを右クリックして、[ビューの編集] を選択します。 レポートのすべてのビューを含む新しいタブが開きます。
- ステップ 6 [作成] の下で、ドロップダウンリストから [グリッド] を選択します。 新しいページが開きます。
- ステップ 7 [名前] と [フォントサイズ] を指定のフィールドに入力します。
- ステップ 8 グリッド ビューの [説明] を入力します。
- ステップ 9 [利用可能なフィールド] で、グリッド ビューで必要になるフィールドを選択します。
- ステップ 10 [選択] をクリックして、選択したフィールドを [グリッド内における現在のフィールドの順序] ボックスの [グリッドヘッダー] に追加します。
- ステップ 11 [すべて選択] をクリックして、利用可能なフィールドをすべて [グリッドヘッダー] に追加します。
- ステップ 12 [ヘッダーの追加] をクリックして、新しいフォルダを [グリッドヘッダー] に追加します。
- ステップ 13 [選択項目の削除] をクリックして、[グリッドヘッダー] 内の項目を削除します。
- ステップ 14 [グループ化] ボタンをクリックして、新しいページを開きます。
- ステップ 15 [グループ数] に適切な値を指定します。
- ステップ 16 [固有の値を縦方向に整列] で適切な値を選択します。
- ステップ 17 [ソート基準] に対応するドロップダウン リストをクリックし、適切なフィールドを選択します。
- ステップ 18 [OK] をクリックします。 前のウィンドウが開きます。
- ステップ 19 作成した新しいビューを保存するには、[保存] をクリックします。
- ステップ 20 ビューの名前を変更するには、[名前を付けて保存] をクリックします。
- ステップ 21 変更を中止して、グリッド エディタを終了するには、[キャンセル] をクリックします。

ゲージビューの作成

ゲージには、単一のレポートメトリック（数値）のステータスが表示されます。ゲージは、複数のメトリックや複雑な相互関係を表示するためのものではありません。 Unified Intelligence Center のゲージは、機能と外観の両方において、自動車の速度計に類似しています。 Unified Intelligence Center で設計するゲージは、可動の針を備えた半円のグラフィックです。ゲージには、値が正常範囲内である視覚的なインジケータが表示されます。



(注) ゲージビューは、履歴レポートにのみ使用でき、ライブデータレポートには使用できません。

次に、ゲージビューを作成する手順について説明します。

手順

- ステップ 1 [レポート] に移動します。
- ステップ 2 [レポート] をクリックして [利用可能なレポート] を表示します。
- ステップ 3 [レポート] フォルダを展開します。
- ステップ 4 適切なフォルダでレポートを探します。
- ステップ 5 レポートを右クリックして、[ビューの編集] を選択します。レポートのすべてのビューを含む新しいタブが開きます。
- ステップ 6 [作成] の下で、ドロップダウンリストから [ゲージ] を選択します。新しいページが開きます。
- ステップ 7 [フィールド] に対応するドロップダウンをクリックして、適切なフィールドを選択します。
- ステップ 8 [名前]、[説明]、[範囲]、および [目盛りの数] のフィールドに入力します。
- ステップ 9 適切な [目盛りのオプション] を選択します。
- ステップ 10 [しきい値] に、各しきい値のレベルに適した [値] を入力します。
- ステップ 11 指定のレベルに対応したチェックボックスをオンにして、しきい値レベルを設定します。
- ステップ 12 [レベル] に対応したチェックボックスをオンにして、4つのしきい値レベルすべてを設定します。
(注) 事前に定義されている4つのしきい値レベルは、[警告]、[マイナー]、[メジャー]、および [クリティカル] です。チェックボックスを使用してしきい値レベルを選択すると、ゲージのグラフィカルプレビューが表示されます。
- ステップ 13 名前を変更してゲージビューを保存するには、[名前を付けて保存] をクリックします。
- ステップ 14 ゲージビューを保存して閉じるには、[保存して閉じる] をクリックします。
- ステップ 15 新しいゲージビューを保存するには、[保存] をクリックします。
- ステップ 16 ページの値をリセットするには、[更新] をクリックします。
- ステップ 17 変更を中止して、ゲージビューエディタを終了するには、[キャンセル] をクリックします。

グラフビューの作成

Cisco Unified Intelligence Center には、円グラフ、棒グラフ、そして折れ線グラフの3種類のグラフが用意されています。円グラフでは、数量を全体に対する比率として表します。円全体がデータの100%を表し、各数量は適切なサイズの一片として表現されます。円グラフでは10進数/数字のフィールドのみを使用できます。円グラフの区分の最大数は50です。データセットおよびグラフエディタ選択で50個を超える扇形を持つ円グラフが作成された場合は、エラーが表示されます。棒グラフは非連続のイベントを表します。傾向ではなくイベント間の差異を表現しま

棒グラフは縦方向にも横方向にも表示できます。また、縦に積み上げたり、横方向に集めて並べたりすることも可能です。折れ線グラフは、連続する数量の共通の目盛りに対する経時的な変化を表します。折れ線グラフは傾向の表示に向いています。



(注) グラフビューは、履歴レポートのみに使用でき、ライブデータレポートには使用できません。



(注) キリル文字では、垂直方向のグラフの場合、[横軸]フィールドのデータラベルがまったく表示されないか、文字化けすることがあります。これは既知の根本的な制限です。キリル文字の場合は、水平方向のグラフを表示することを推奨します。

次に、グラフビューを作成する手順について説明します。

手順

- ステップ 1 [レポート] に移動します。
- ステップ 2 [レポート] をクリックして [利用可能なレポート] を表示します。
- ステップ 3 [レポート] フォルダを展開します。
- ステップ 4 適切なフォルダでレポートを探します。
- ステップ 5 レポートを右クリックして、[ビューの編集] を選択します。レポートのすべてのビューを含む新しいタブが開きます。
- ステップ 6 [作成] の下で、ドロップダウンリストから [グラフ] を選択します。[全般設定] ページが開きます。
- ステップ 7 [グラフの種類] に対応するドロップダウンリストをクリックし、適切なフィールドを選択します。
- ステップ 8 [グラフ名] フィールドと [グラフの説明] フィールドに入力します。
- ステップ 9 必要に応じ、[ユーザ補助モード]、[動的なデータセット]、[レポートフッターの使用]、[凡例の表示] のそれぞれに対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 10 [凡例の位置] の横にあるドロップダウンリストボックスをクリックして、[右] または [下] を選択します。
- ステップ 11 [凡例ラベルの最大長] の値を指定します。
- ステップ 12 [データの変更による効果] で、[タイプ] の横にあるドロップダウンリストボックスをクリックして、適切なフィールドを選択します。

(注) [棒グラフの設定] と [折れ線グラフの設定] の下にあるフィールドは、選択したグラフの種類がそれぞれ [棒グラフ] と [折れ線グラフ] である場合にアクティブになります。

- ステップ 13** [次へ] をクリックして、[系列の設定] ページを開きます。
- ステップ 14** [系列] で、[データフィールド] と [ラベルフィールド] の横にあるドロップダウンリストボックスをクリックして、適切なフィールドを選択します。
- ステップ 15** [ラベル] で、[ラベルの位置] と [ラベルの形式] の横にあるドロップダウンリストボックスをクリックして、適切なフィールドを選択します。
- ステップ 16** [次へ] をクリックして、[サマリー] ページを開きます。
- ステップ 17** [保存してプレビュー] ボタンをクリックして、グラフのプレビューを表示します。
- ステップ 18** [保存して終了] をクリックして、グラフを保存し、ページを終了します。
- ステップ 19** 変更を中止して、**グラフ エディタ**を終了するには、[キャンセル] をクリックします。

グループ化

レポート グループをフォーマットするステップは、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 左のペインの [レポート] ドロワーを選択します。
- ステップ 2** グループ化のフォーマットを行うレポートを右クリップし、[ビューの編集] を選択します。
- ステップ 3** グループ化のフォーマットを行うビューを選択し、[編集] をクリックします。
- ステップ 4** [グループ化] ボタンをクリックすると、新規ページが開きます。
- ステップ 5** [グループ数] に適切な値を指定します。レポート内の 0、1、2、または 3 個のグループを選択できます。
- ステップ 6** [固有の値を縦方向に整列] から、[上]、[中央]、または [下] のいずれかを、レポート列でグループの名前を表示する場所として指定します。
(注) 概要のみを表示する場合には、[サマリーのみ表示] チェックボックスをオンにします。
[サマリーのみ表示] チェックボックスは、すべてのフィールドで使用できます。
- ステップ 7** [グループ化基準] で、ドロップダウンリストから値を選択します。レポートデータは、この値によってグループ化されます。
ドロップダウンリストから日付または日時の値を選択する場合、次のいずれかのオプションを選択します。
- [なし]：レポートデータは、日、週、または月単位ではなく、値によってグループ化されません。
 - [毎日]：レポートは、日単位でグループ化されます。
 - [毎週]：レポートは、週単位でグループ化されます。
 - [毎月]：レポートは、月単位でグループ化されます。

- ステップ 8** [サマリーの表示] チェックボックスをオンにし、グループ化のためのレポートに概要行を含めます。たとえば、エージェントチームごとにグループ化を行う、[サマリーの表示] チェックボックスをオンにすると、各チームの概要データの行が表示されます。
- (注) [サマリーのみ表示] チェックボックスをオンにすると、[サマリーの表示] チェックボックスは使用できなくなります。
- ステップ 9** [ソート基準] で、ドロップダウンリストから値を選択します。レポートデータは、この値によってソートされます。
- ステップ 10** [OK] をクリックします。

フィールドに対するしきい値インジケータの設定

フィールド値が特定の値を超えるまたは下回る場合に、フィールドに表示されるしきい値インジケータを設定できます。しきい値インジケータは、グリッドタイプおよびゲージタイプのビューにのみ設定できます。

ゲージビューのしきい値を設定する方法は、ゲージビューの作成手順に記載されています。ゲージビュー作成の詳細については、[ゲージビューの作成](#)、(33 ページ) を参照してください。

グリッドビュー作成の詳細については、[グリッドビューの作成](#)、(32 ページ) を参照してください。グリッドビューのフィールドにしきい値インジケータを設定するには、以下のステップに従います。

手順

- ステップ 1** 左のペインの [レポート] ドロワーを選択します。
- ステップ 2** フィールドにしきい値を設定するレポートを右クリップし、[ビューの編集] を選択します。
- ステップ 3** フィールドにしきい値を設定するビューを選択し、[編集] をクリックします。
- ステップ 4** [グリッド内における現在のフィールドの順序] ボックスで、しきい値を設定するフィールドを右クリップし、[しきい値] を選択します。
- ステップ 5** [しきい値] ウィンドウで、[追加] をクリックして新しいしきい値を追加します。
- (注) 既存のしきい値を編集するには、しきい値を選択し、[編集] をクリックします。
- ステップ 6** [タイプ] ドロップダウンリストで、現在のフィールド値に対してしきい値をチェックする条件を選択します。次に表示されるフィールドに、必要に応じて、値または式を入力します。
- (注) 式を使用する場合は、[正規表現] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** しきい値条件に一致する場合に表示されるフィールドのテキストをフォーマットします。次のオプションを使用します。
- [太字] : チェックボックスをオンにすると、テキストが太字になります。
 - [テキストの色] : フィールドのテキストの色を選択します。
 - [背景色] : フィールドの背景色を選択します。

- d) [代替テキスト]：しきい値条件に一致する場合にフィールドのテキストを文字列で置換する場合には、新しい文字列を入力します。
- e) [画像の場所]：しきい値条件に一致する場合にテキストを画像に置換する場合には、画像のパスを入力します。画像ディレクトリにアップロードされている画像を使用するか、Unified Intelligence Center がアクセスできる場所の URL を入力することができます。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

しきい値の追加および編集

手順

- ステップ 1** [レポート] ページを開き、しきい値を設定するレポートを右クリックします。
 - ステップ 2** [ビューの編集] を選択します。
 - ステップ 3** ビューのタイプとして [グリッド] を選択し、[編集] をクリックします。グリッドエディタでグリッドビューが開きます。
 - ステップ 4** [しきい値] を選択し、[追加] をクリックします。
 - ステップ 5** ドロップダウンリストから [タイプ] を選択します。
 - ステップ 6** [太字] をオンまたはオフにします。
 - ステップ 7** [テキストの色] をクリックして、カラーパレットを開きます。色をクリックすると、その色がテキストの色として選択され、パレットが閉じます。
 - ステップ 8** [背景色] をクリックして、カラーパレットを開きます。色をクリックすると、その色が背景の色として選択され、パレットが閉じます。
 - ステップ 9** [代替テキスト] フィールドに、しきい値の条件が満たされた場合にフィールド値をマスクする、デフォルトタイプ以外のテキストを入力します。たとえば、タイプとして [次の値より小さい] を選択した場合、条件が満たされたときに「警告」と表示できます。
 - ステップ 10** [代替画像URL] フィールドに、テキストの代わりに画像でフィールド値をマスクするための画像の URL またはパスを入力します。
 - ステップ 11** [OK] をクリックします。
-



第 5 章

データ ソース

- [データソースの概要, 39 ページ](#)
- [データ ソース, 39 ページ](#)
- [クエリー ベースのデータ ソース, 41 ページ](#)
- [Java Message Service ベースのデータ ソースの作成または編集, 42 ページ](#)
- [データ ソースのノードの切り替え, 44 ページ](#)

データソースの概要

データ ソースはデータベースを表します。各レポート サーバには、データベースごとに 1 つのデータ ソースが必要です。このデータ ソースから、レポートにデータが入力されます。

左側のパネルの [データソース] ドロワーをクリックして、[データソース] ページを開きます。システム設定管理者の権限を持つユーザだけが、このドロワーの全機能にアクセスできます。



(注) データ ソース インターフェイスでのあらゆる操作は、データ ソースに対するユーザの役割とオブジェクト権限に基づきます。

データ ソース

データ ソースはデータベースを表します。各レポート サーバには、データベースごとに 1 つのデータ ソースが必要です。このデータ ソースから、レポートにデータが入力されます。

左のパネルの [データソース] ドロワーをクリックすると、[データソース] ページが開きます。
(システム設定管理者の権限を持つユーザだけが、このドロワーの全機能にアクセスできます)。

図 7: データ ソース

Name	Connected Node	Standby Node	Type	Datasource Host	Database Name	Charset
CUIC	<input checked="" type="checkbox"/>		Informix	\$(HOSTNAME)	\$(CUIC_DB_NAME)	UTF-8
JMS DS1	<input checked="" type="checkbox"/>		Java Message Service (JMS)	Broker URL		
JMS DS2	<input checked="" type="checkbox"/>		Java Message Service (JMS)	Broker URL		
UCCE Historical	<input checked="" type="checkbox"/>	Primary	Microsoft SQL Server	10.78.90.235	mach2_awdb	ISO-8859-1
UCCE Realltime	<input checked="" type="checkbox"/>	Secondary	Microsoft SQL Server	10.78.90.235	mach2_awdb	ISO-8859-1

各行の左側にあるラジオ ボタンをクリックして、データ ソースを選択して編集します。

表 2: [データソース] ページのフィールド

フィールド	説明
[名前]	データ ソースの名前。
[接続済みノード]	接続済みデータ ソースのステータスを表示します。緑のチェックマークは、接続されていることを示します。赤い x は、接続されていないことを示します。[プライマリ] は、プライマリ データ ソースを示します。[セカンダリ] は、セカンダリ データ ソースを示します。
[スタンバイノード]	スタンバイ データ ソースのステータスを表示します。緑のチェックマークは、接続されていることを示します。赤い x は、接続されていないことを示します。[プライマリ] は、プライマリ データ ソースを示します。[セカンダリ] は、セカンダリ データ ソースを示します。
[タイプ]	データベース タイプ (MS SQL Server、Informix、および Java Message Service (JMS))。
[データベースホスト]	データベース サーバの DNS 名または IP アドレス。 (注) データベース名は HDS 名ではなく、AWDB 名にする必要があります。AW データベースからのビューを使用して、HDS データベースから情報が取得されます。
[データベース名]	データベースの名前。
[文字セット]	データ ソースで使用される文字セット。

各データ ソースに次のアクションを実行できます。

- [作成]: 新しいデータソースを定義するための、フィールドが空欄の [データソースの作成/編集] ページを開きます。(システム設定管理者のユーザのみ使用できます)。
- [編集]: 行が選択されているときに有効になります。フィールドを確認または変更できる [データソースの作成/編集] ページが開きます。(ほとんどのユーザに対して無効です)。
- [削除]: 行が選択されているときに有効になります。確認のプロンプトが表示された後、データソースが削除されます。(実行できるのは、そのデータソースに対する書き込み権限を持つシステム設定管理者だけです)。
- [更新]: データソース ページを更新して、変更を反映します。
- [ノードの切り替え]: 代替データベースホストに切り替えるためのプロンプトを表示します。選択されたデータソースにセカンダリ データベース ホストが設定されており、かつユーザにそのデータソースに対する編集権限がある場合に、このボタンが有効になります。データソースのノードを切り替えるには、[データソースのノードの切り替え](#)、(44 ページ) を参照してください。
- [ヘルプ]: オンライン ヘルプを開きます。
- [X]: ページを閉じます。

クエリーベースのデータソース

システム設定管理者の権限を持つユーザのみがデータソースの作成または編集を実行できます。データソースを作成するには、以下のステップに従います。

手順

- ステップ 1** [データソース] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2** [データソース] タブで、[作成] をクリックします。
(注) データソースを編集するには、データソースを選択し、[編集] をクリックします。
- ステップ 3** [プライマリ] タブで、[名前] フィールドに、データソースの名前を入力します。
- ステップ 4** [説明] フィールドに、データソースの説明を入力します。
- ステップ 5** [タイプ] ドロップダウン リストから、データソースに含めるデータベースのタイプを選択します。
(注) [Java Message Service (JMS)] タイプのデータソースを設定するには、[Java Message Service ベースのデータソースの作成または編集](#)、(42 ページ) を参照してください。
- ステップ 6** [データソースホスト] フィールドに、データベースのホストのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 7** [ポート] フィールドに、Unified Intelligence Center がデータベースと通信するためのポート番号を入力します。
(注) ポート番号は Informix データベースにのみ必須のフィールドです。Microsoft SQL Server データベースでは、このフィールドを空欄のままにできます。

- ステップ 8** [データベース名] フィールドに、データベースの名前を入力します。
- ステップ 9** [インスタンス] フィールドに、データ ソースとして使用するデータベースのインスタンスを入力します。
(注) データベースのインスタンスの名前は Informix データベースにのみ必須のフィールドです。Microsoft SQL Server データベースでは、このフィールドを空欄のままにできます。
- ステップ 10** [タイムゾーン] ドロップダウン リストから、データベースが置かれているタイムゾーンを選択します。
- ステップ 11** [データベースユーザID] フィールドに、データベースへのアクセスに必要なユーザ ID を入力します。
- ステップ 12** [パスワード] フィールドに、データベースへのアクセスに必要なユーザ ID のパスワードを入力します。
- ステップ 13** [パスワードの確認] フィールドに、パスワードを再入力します。
- ステップ 14** [文字セット] ドロップダウン リストから、データベースで使用される文字セットを選択します。
- ステップ 15** データ ソースにアクセスして管理するための権限を割り当てます。
(注) 権限は [すべてのユーザ] および [マイグループ] にのみ設定されます。特定の権限については、データソース作成後に、[割り当てられているユーザ権限] および [割り当てられているグループ権限] ページを使用します。
- ステップ 16** [接続のテスト] をクリックして、データベースにアクセスできること、そして入力した資格情報が正しいことを確認します。
- ステップ 17** [セカンダリ] タブをクリックしてデータソースのフェールオーバーを設定します。
(注) データソースのフェールオーバーを設定しない場合は、ステップ 18 に直接移動します。
- ステップ 18** [フェールオーバー有効] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 19** ステップ 6 ~ 16 の説明に従い、フェールオーバー データ ソースに必要な詳細を入力します。
- ステップ 20** [保存] をクリックします。

Java Message Service ベースのデータ ソースの作成または編集

クエリー タイプがリアルタイム ストリーミングのレポート定義を作成するには、Java Message Service (JMS) ベースのデータ ソースが必要です。JMS ベースのデータ ソースには、[セカンダリ] データ ソース タブはありません。ただし、JMS ベースのデータ ソースは、次に示すように、`failover:` キーワードを使用して、フェールオーバー ブローカ URL をサポートします。

フェールオーバー アドレスを含む JMS ブローカ URL の構文は、`failover:(tcp://primary:61616,tcp://secondary:61616)` です。

次の情報が用意されていることを確認してください。

- JMS ブローカの URL とフェールオーバー URL (存在する場合)

- 発行済みトピックのリストを含むスキーマの URL
- スキーマ URL へのアクセスに使用するユーザ名とパスワード

JMS ベースのデータソースを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [データソース] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2** [データソース] タブで、[作成] をクリックします。
- ステップ 3** [名前] フィールドに、データソースの名前を入力します。
- ステップ 4** [説明] フィールドに、データソースの説明を入力します。
- ステップ 5** [タイプ] ドロップダウンリストから、[Java Message Service (JMS)] を選択します。
- ステップ 6** [ブローカURL] フィールドに、JMS ブローカの URL を入力します。JMS ブローカ URL にサポートされているプロトコルは `tcp` だけです。

JMS ブローカ URL の構文は、次の例に示すように `tcp://hostname:port` になります。hostname は IP アドレスに置き換えることもできます。フェールオーバー ブローカ URL を設定するには、`failover:(tcp://primary hostname:port, tcp://secondary hostname:port)` の構文を使用します。

例：

```
tcp://11.111.11.111:61616
```

```
failover:(tcp://11.111.11.111:61616, tcp://22.222.22.222:61616)
```

(注) タイムゾーンは、JMS ベースのデータソースに対しデフォルトで UTC に設定されています。これは変更できません。

- ステップ 7** [REST URLパラメータ] セクションの [トピックスキーマURL] フィールドに、購読済みトピックのリストを含むスキーマ URL を入力します。サポートされるプロトコルは、`http` と `https` だけです。
トピック スキーマ URL の構文は、`protocol://hostname:port/path` です。ここにスキーマが保存されます。hostname は IP アドレスに置き換えることもできます。

例：

```
http://11.111.11.111:8088/schema/rest/reportdefinition/schema/
```

- ステップ 8** [ユーザ名] フィールドに、トピック URL へのアクセスに必要な REST ユーザ名を入力します。
- ステップ 9** [パスワード] フィールドに、トピック URL へのアクセスに必要な REST パスワードを入力します。
- ステップ 10** [パスワードの確認] フィールドに、REST パスワードを再入力して確認します。
 - (注)
 - JMS データソースでトピックスキーマ URL を使用する前に、管理者がその URL を検証していることを確認します。トピックスキーマ URL の検証に証明書が必要な場合は、[データソース] ページにユーザ名とパスワードを入力します。
 - REST トピックスキーマは、そのレポートのレポート定義を作成するときに検証されます。

- ステップ 11** データ ソースにアクセスし管理するための適切な権限を割り当てます。
- (注) 権限は、[すべてのユーザ] と [マイグループ] だけに対して設定されます。特定の権限については、データ ソースを作成した後で、[割り当てられているユーザ権限] と [割り当てられているグループ権限] ページを使用します。
- ステップ 12** [接続のテスト] をクリックして、JMS ブローカ URL にアクセスできることを確認します。
- (注) データ ソースの場合、[接続のテスト] は、JMS ブローカ URL だけを検証し、REST トピック スキーマ URL は検証しません。
- ステップ 13** [保存] をクリックします。
-

データ ソースのノードの切り替え

必要に応じ、データ ソースをセカンダリ ノードに手動で切り替えることができます。ただし、セカンダリ ノードを設定する必要があります。データ ソースを設定する方法の詳細については、[クエリーベースのデータ ソース](#)、(41 ページ) を参照してください。

データ ソースのノードを手動で切り替えるには、以下のステップに従います。

手順

- ステップ 1** [データソース] ドロワーをクリックします。
- ステップ 2** ノードを切り替える対象のデータ ソースを選択します。
- ステップ 3** [ノードの切り替え] をクリックします。
- (注) ノードの切り替えは、Java Message Service (JMS) ベースのデータ ソースには該当しません。
-



第 6 章

値リスト

- [値リストとコレクションの概要, 45 ページ](#)
- [値リスト, 45 ページ](#)
- [値リストの作成または編集, 47 ページ](#)
- [コレクションの作成または編集, 48 ページ](#)

値リストとコレクションの概要

値リストはデータベースクエリーに基づいており、すべてのエージェントまたはすべてのスキルグループのように、レポート可能な同タイプの項目がすべて含まれています。

コレクションとは、値リストのサブセットで、コレクションを作成することで特定のユーザやユーザグループに表示するデータ量を制御できます。たとえば、ある地域、またはある業務内のスキルグループのみを表示する、スキルグループのコレクションを作成できます。Unified Intelligence Centerでは、ストックコレクションはインストールされません。作成権限を持つユーザは、カスタムコレクションを作成できます。

ユーザがレポートを実行すると、そのレポートにはフィルタ処理に使用できる値リストとコレクションが提示されます。値リストまたはコレクションでのフィルタ処理が実行可能かどうかは、グループ権限またはユーザ権限によって決定されます。

値リスト

値リストには、すべてのエージェントまたはすべてのスキルグループのように、同じタイプのレポート可能な項目がすべて含まれます。Unified Intelligence Centerは、ストック値リストと共にインストールされます。値リストコレクション作成者の役割を持つユーザは、カスタム値リストを作成できます。

値リストを、レポートのフィールドとパラメータに関連付けることができます。レポートに関連付けられた値リストは、そのレポートのフィルタになります。

値リストまたはコレクションでのフィルタ処理が実行可能かどうかは、ユーザの役割とグループ/ユーザ権限によって決定されます。

表 3: [値リスト] ページの行

フィールド	説明
[名前]	値リストの名前。
[データソース]	値が取得されるデータ ソース。
[ステータス]	データ ソースのステータス。緑のチェックボックスは、データ ソースがオンラインであることを意味します。赤の X はデータ ソースがオフラインであることを意味します。
[タイプ]	<p>値リストのタイプはストックまたはカスタムです。ストック リストはインストール時に追加されます。カスタム リストは、値リスト コレクション作成者の役割を持つユーザによって作成されます。</p> <p>ストック値リストには次のリストがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • エージェント • エージェント チーム • コール タイプ • エンタープライズ サービス • エンタープライズ スキル グループ • サービス • スキル グループ • トランク グループ
[説明]	値リストに入力された説明。

[値リスト] ページで、次の操作を実行できます。

- [フィルタ]: 1 つ以上の文字を入力して [フィルタ] をクリックし、リストを絞り込みます。
- [クリア]: [クリア] をクリックして、フィルタを解除します。
- [作成]: [値リストの作成/編集] ページを開きます。ここで、新しいカスタム値リストを定義できます。
- [編集]: 行のラジオボタンが選択されると有効になります。[値リストの作成/編集] ページが開き、カスタム値リストのプロパティを確認および編集できます。編集できるのは、ストック値リストに対する権限のみです。

- [値]：行のラジオボタンが選択されると有効になります。ボックスが開き、値のリストとともに[値リストの更新] ボタンが表示されます。
- [コレクション]：行のラジオボタンが選択されると有効になります。[値リスト] ページが更新され、値リストのすべてのコレクションが表示されます。
- [削除]：行のラジオボタンが選択されると有効になります。削除の確認後、カスタム値リストが削除されます。



(注)

- ストック値リストは削除できません。
- レポート定義のフィールドで参照されているカスタム値リストは削除できません。
- また、コレクションを含むカスタム値リストは削除できません。

- [更新]：ページが更新され、値リストの作成や削除など、別のユーザによる変更が反映されます。
- [ヘルプ]：オンライン ヘルプを開きます。
- [X]：ページを閉じます。

値リストの作成または編集

値リストは、レポート定義クエリーから受信したデータ以外にデータを取得するために使用されます。値リストは、2つの異なるデータベースからデータを取得したり、2つの異なるクエリーを実行したりする場合に役立ちます。

次の手順で値リストを作成します。

手順

- ステップ 1** 左のパネルで [値リスト] ドロワーを選択します。
- ステップ 2** [作成] をクリックします。
(注) 値リストを編集するには、値リストを選択し、[編集] をクリックします。
- ステップ 3** 次の情報を入力します。
 - a) [値リスト名]：値リストの名前を入力します。
 - b) [バージョン]：値リストのバージョン番号を入力します。
 - c) [タイプ]：このフィールドは自動的に生成されます。作成するすべての値リストのこのフィールドには [カスタム] という値が含まれます。
 - d) [データソース]：ドロップダウン リストからデータ ソースを選択します。
 - e) [説明]：値リストの説明を入力します。

- f) [値リストクエリー]: 値リストの値を取得するためのデータベース クエリーを入力します。
[検証] をクリックすると、クエリーの妥当性をただちに確認できます。
- g) [コレクションクエリー]: 値リストクエリーで生成された値のリストから、データを取得するクエリーを入力します。このクエリーは、タイプが [ID] のコレクションを作成する予定の場合にのみ必要です。コレクションの詳細については、[コレクションの作成または編集](#)、(48 ページ) を参照してください。

ステップ 4 適切な権限を選択します。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

コレクションの作成または編集

コレクションは、値リストで取得されるデータのサブセットです。既存のどの値リストについてもコレクションを作成でき、1つの値リストに対して複数のコレクションを設定できます。

手順

ステップ 1 左のパネルにある [値リスト] ドロワーをクリックします。

ステップ 2 コレクションを作成または編集する値リストを選択します。

ステップ 3 [コレクション] をクリックします。

ステップ 4 [すべてのコレクション] で、[作成] をクリックします。

(注) 既存のコレクションを編集するには、[すべてのコレクション] でコレクションを選択し、[編集] をクリックします。

ステップ 5 [コレクション名] フィールドに、コレクションの名前を入力します。

ステップ 6 [説明] フィールドに、コレクションの説明を入力します。

ステップ 7 [コレクションタイプ] ドロップダウンリストから、コレクションのタイプを選択します。以下のようなタイプがあります。

- [ID]: 関連付けられた値リストで定義された、コレクションクエリーで使用する ID を入力します。
- [ワイルドカード]: 値リストで生成された値からデータを検索するためのワイルドカードを含む文字列を入力します。
- [値]: 値リストで生成された値のリストからサブセットを選択できます。

ステップ 8 適切な権限を選択します。

ステップ 9 [保存] をクリックします。



第 7 章

セキュリティ

- [管理者の概要, 49 ページ](#)
- [セキュリティの概要, 50 ページ](#)
- [ユーザリスト, 50 ページ](#)
- [ユーザの作成, 51 ページ](#)
- [ユーザグループ, 53 ページ](#)
- [ユーザグループの作成, 54 ページ](#)
- [ユーザ権限の管理, 55 ページ](#)
- [権限について, 57 ページ](#)
- [ユーザグループについて, 59 ページ](#)
- [選択した権限で実行, 60 ページ](#)
- [Cisco Unified Intelligence Center の監査証跡ロギング, 61 ページ](#)
- [監査証跡レポート, 62 ページ](#)
- [サンプル監査証跡レポート, 63 ページ](#)
- [セキュリティに関するベストプラクティス, 63 ページ](#)

管理者の概要

Unified Intelligence Center レポートニングアプリケーションの機能へのアクセスは、セキュリティ管理者ユーザの役割を持つ 1 人以上のユーザによって制御されます。

初期のデフォルト設定では、インストール時にシステムアプリケーションユーザとして定義されたユーザがセキュリティ管理者となります。

セキュリティ管理者は、次の操作を実行できます。

- ユーザの作成と保守

- ユーザの役割の割り当て：ユーザの役割は、ドロワーへのアクセスと、ユーザが作成できるオブジェクトを制御するために、ユーザに割り当てられます。
- ユーザ グループへのユーザの割り当て
- ユーザ グループの作成と保守
- 権限の割り当て：ユーザの役割は人に割り当てられますが、権限はオブジェクト（ダッシュボード、レポート、レポート定義、データソース、値リスト、およびコレクション）に割り当てられます。
- [選択した権限で実行] 機能を使用した他のユーザの権限確認

セキュリティの概要

Unified Intelligence Center セキュリティは、マルチレイヤの柔軟な機能を提供します。これにより、セキュリティ管理者は、組織のニーズに応じて Unified Intelligence Center の機能へのフラットな、または階層的なアクセス構造を構築できます。

Unified Intelligence Center 機能へのユーザのアクセスは、以下の条件に基づきます。

- ログイン認証。
- ユーザの組織が Unified Intelligence Center を実行するライセンス タイプ。標準ライセンスを使用している組織は、レポート定義機能にはアクセスできません。
- ユーザの役割（各ユーザは、7 種類のユーザの役割の中から、1 つ、複数、またはすべてを持つことができます）。
- ユーザがメンバーとなっているユーザ グループ。
- ユーザがアクセス可能なオブジェクトに関しては、オブジェクト作成者が指定したオブジェクトレベルの権限。

ユーザ リスト

[ユーザリスト] ページは [セキュリティ] ドロワーから開きます。セキュリティ管理者ユーザの役割を所持していないユーザがこのページにアクセスした場合、そのユーザが表示できるのは自身の名前のみであり、ページを開いて、メールアドレスや電話番号など、いくつかのパラメータを変更できます。このユーザは、自身の役割またはグループメンバーシップを変更することはできません。

セキュリティ管理者がこのページにアクセスすると、すべての既存ユーザを表示でき、ユーザを作成でき、ユーザを変更または削除でき、ユーザ情報を確認または編集でき、さらに [選択した権限で実行] 機能を使用し、ユーザとして Cisco Unified Intelligence Center で作業できます。

表 4: [ユーザリスト] ページの各フィールド

フィールド	説明
[アクティブなユーザのみを表示]	チェックボックスをオンにすると、現在アクティブなユーザが表示されます。
[次を含む名前]	このフィルタ フィールドを使用すると、リストに表示される名前を絞り込んだり、特定の名前に移動したりできます。
[ユーザ名]	ドメインとユーザ名（ドメイン\名前）。
[名]	ユーザの名前。
[姓]	ユーザの姓。

[ユーザリスト] ページで、次の操作を実行できます。

- [作成] : [ユーザ情報] ページが開きます。
- [編集] : ユーザ名を選択し、[編集] をクリックして [ユーザ情報] ページを編集します。
- [削除] : ユーザを選択し、[削除] をクリックしてユーザを削除します。
- [選択した権限で実行] : ユーザを選択し、[選択した権限で実行] をクリックして Cisco Unified Intelligence Center レポート インターフェイスを更新します。
- [更新] : ページを更新すると、最新の変更内容が反映された [ユーザリスト] が表示されます。
- [ページ] : 矢印をクリックし、[ユーザリスト] の次のページに移動します。
- [ヘルプ] : オンライン ヘルプを開きます。
- [X] : ページを閉じます。

ユーザの作成

ユーザを作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [セキュリティ] > [ユーザリスト] に移動します。
- ステップ 2** [全般情報] タブで、次の手順を実行します。
- [ユーザ名] フィールドに、ドメインおよびユーザ名（ドメイン\名前）を入力します。
 - [エイリアス] フィールドに、このユーザのエイリアス名を入力します。

- c) [ユーザがアクティブ]チェックボックスをオンにして、ユーザがログインしてアクティブでいられるようにします。
(注) チェックボックスがオフの場合、ユーザはログインできません。
- d) [名] フィールドに、ユーザの名を入力します。
- e) [姓] フィールドに、姓を入力します。
- f) [組織] フィールドに、ユーザに関連する会社名またはその他の説明テキスト（地域や業種など）を入力します。
- g) [メール] フィールドに、ユーザのメールアドレスを入力します。
- h) [電話] フィールドに、ユーザの電話番号を入力します。これはユーザの個人的な電話番号や緊急連絡先電話番号でも構いません。
- i) [説明] フィールドに、ユーザの説明を入力します。
- j) [タイムゾーン] フィールドで、レポートで使用するタイムゾーンをドロップダウン リストから選択します。
このタイムゾーンは、ユーザのスケジュール設定されたレポートにも使用され、レポートサーバで使用されるタイムゾーンよりも優先されます。
(注) このフィールドが空のままの場合には、レポートサーバのタイムゾーンがシステムによって使用されます。
- k) [週の開始曜日] について、次の手順を実行します。
- [ロケールベース] を選択すると、ロケールに基づいた週の開始曜日が選択されます。
 - [カスタム設定] を選択すると、ドロップダウン リストから週の7つの曜日の中から1つを選択できます。
- (注) [週の開始曜日] は、スケジュール設定されたレポート、レポート ビュー、および固定リンクで使用されます。スケジュール設定されたレポートとレポート ビューでは、レポートの作成者と変更者によってユーザリストの[編集] ページとユーザリストの[作成] ページで定義された週の開始曜日が使用されます。固定リンクでは、日曜日が週の開始曜日として使用されます。
- l) [役割] フィールドでは、1つ以上の役割を選択しこのユーザに割り当てます。
セキュリティ管理者がユーザの役割を追加または変更した場合には、そのユーザがログアウトして再度ログインするまで、その変更は有効になりません。
- m) [権限] フィールドでは、新しいオブジェクトの作成時に、マイグループのユーザ権限設定を選択します。マイグループとは、オブジェクト所有者のデフォルトグループです。
(注) マイグループの設定により、このユーザのデフォルトグループに属する他のユーザがオブジェクトを書き込み、または実行できるかどうか指定されます。より高いレベルの権限が、その他の権限よりも優先されます。

ステップ 3 [グループ] タブで、このユーザがメンバーであるグループと、ユーザのグループ メンバーシップを追加する方法を指定できます。次の内容を表示できます。

- [マイグループ]: このフィールドにはユーザのデフォルトグループが表示されます。セキュリティ管理者はこれを変更できます。このグループがそのユーザの「マイグループ」として表されます。

- [選択可能なグループ]: このリストには、作成済みのグループのうち、ユーザがまだメンバーになっていないグループがすべて表示されます。矢印を使用し、列間でグループを移動できます。
- [選択済みグループ]: この列には、そのユーザがメンバーになっているすべてのグループが表示されます。矢印を使用し、列間でグループを移動できます。
 - (注) デフォルトで、すべてのユーザの [選択済みグループ] 列に [すべてのユーザ] が含まれています。 [選択済みグループ] 列から [すべてのユーザ] グループを削除することはできません。

ユーザグループ

[ユーザグループ] ページは [セキュリティ] ドロワーから開きます。このページでは、既存のグループの表示、グループの作成または削除、グループ情報の確認または編集を実行できます。

システムによって作成されるデフォルトのグループは、次の2つです。

- [すべてのユーザ] グループは、Unified Intelligence Center によって設定されます。どのユーザも、デフォルトでこのグループに属します。
- [管理者] グループは、管理者によって構成されます。

表 5: [ユーザグループ] ページのフィールド

フィールド	説明
[次を含む名前]	このフィルタ フィールドを使用すると、グループ名のリストを絞り込んだり、特定の名前に移動したりできます。
[名前]	グループの名前。
[フルネーム]	フルネームには、ドット区切り文字で示された、グループの子関係が示されます。 たとえば、グループ 3 のデフォルト グループがグループ 1 であり、グループ 1 が最上位グループ（親グループがないグループ）である場合、グループ 1 のフルネームは、グループ 1 になります。グループ 3 のフルネームは、Gグループ 1.グループ 3 になります。
[説明]	グループを説明するテキストです。

[ユーザグループ] ページでは、次の操作を実行できます。

- [作成]: [グループ情報] ページが開きます。

- [編集] : グループ名を選択して [編集] をクリックすると、[グループ情報] ページが開きます。
- [削除] : グループ名を選択して [削除] をクリックします。
- [更新] : ページを更新し、変更内容が反映された [グループリスト] を表示します。
- [ヘルプ] : オンライン ヘルプを開きます。
- [X] : ページを閉じます。

ユーザグループの作成

ユーザグループを作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [セキュリティ] > [ユーザグループ] に移動します。
- ステップ 2** [全般情報] タブで、次の手順を実行します。
- a) [グループ名] フィールドに、グループの名前を入力します。このフィールドは、新しいグループを作成する場合のみ使用可能になります。
 - b) [説明] フィールドで、このグループについて説明するテキストを入力するか編集します。
- ステップ 3** [グループ] タブで、次の手順を実行します。
- a) [デフォルトのグループ] : ドロップダウン リストからデフォルトのグループを選択します。
 - b) [選択可能なグループ] : このグループの親として使用可能な作成済みグループを表示します。[>] または [<] をクリックして、そのグループのみ、または複数のグループを移動します。
 - c) [選択済みグループ] : このグループが子になっているグループを表示します。[>] または [<] をクリックして、そのグループのみ、または複数のグループを移動します。
- ステップ 4** [グループメンバー] タブで、次の手順を実行します。
- a) [ユーザ] タブ :
 - [選択可能なユーザ] : このグループの子として使用可能な作成済みユーザをすべて表示します。[>] または [<] をクリックして、そのグループのみ、または複数のグループを移動します。
 - [選択済みユーザメンバー] : 現在このグループの子になっているユーザを表示します。[>] または [<] をクリックして、そのグループのみ、または複数のグループを移動します。
 - b) [グループ] タブ :
 - [選択可能なグループ] : このグループの子として使用可能な作成済みグループをすべて表示します。[>] または [<] をクリックして、そのグループのみ、または複数のグループを移動します。

- [選択済みグループメンバー] : 現在このグループの子になっているグループを表示します。 [>] または [<] をクリックして、そのグループのみ、または複数のグループを移動します。

ステップ 5 新規エントリ、またはフィールドに対する変更を更新するには、[保存] をクリックします。

ステップ 6 キャンセル、またはページを閉じるには、[キャンセル] をクリックします。

ユーザ権限の管理

このページは、グループまたは個別ユーザに対して権限を追加設定する際に使用します。
[ユーザ権限] ページには、以下のタブがあります。

割り当てられているグループ権限

手順

- ステップ 1** [権限] パネルでオブジェクトタイプを選択します。 [ダッシュボード]、[レポート]、または [レポート定義] のタイプでは、カテゴリまたはカテゴリ内のオブジェクトを選択できます。 他のオブジェクトタイプでは、リストからオブジェクトを選択します。 オブジェクトの権限がすでに割り当てられているグループがすべて、[選択項目に対するグループ権限] パネルに表示されます。
- ステップ 2** [すべてのグループ] パネルでグループを選択します。 このグループのすべてのユーザメンバーが [選択済みグループのすべてのユーザ] パネルに表示されます。
- ステップ 3** [権限の設定] をクリックします。 グループに対して設定するレベル (実行、書き込み) にチェックを入れた後、[OK] をクリックします。
- ステップ 4** [選択項目に対するグループ権限] パネルが更新され、そのグループとステップ 3 で定義したグループの権限がこのパネルに表示されます。



(注) セキュリティ管理者がユーザ権限を追加、または変更しても、変更がすぐに反映されないことがあります。

表 6: [グループメンバー] タブのフィールド

フィールド	説明
[権限] パネル (上部左)	ドロップダウンリストをクリックし、権限を設定するオブジェクトを選択します。オプションは、[データソース]、[レポート定義]、[レポート]、[ダッシュボード]、[値リスト]、[コレクション] です。 オブジェクトタイプを選択すると、パネルが更新され、そのオブジェクトの項目またはカテゴリのリストが表示されます。
[すべてのグループ] パネル (上部右)	このパネルには、利用可能なユーザグループが表示されます。ユーザグループを強調表示するとページが更新され、[選択済みグループのすべてのユーザ] パネルにそのグループのメンバーのリストが表示されます。
[選択済みグループのすべてのユーザ] パネル (下部左)	このパネルには、[すべてのグループ] パネルで強調表示されたグループのメンバーがすべて表示されます。
[権限の設定] ボタン	このオプションをクリックするとダイアログボックスが開き、[権限] パネルで選択されたオブジェクトと [すべてのグループ] パネルで選択されたグループに対して権限レベルを選択できます。
[選択項目に対するグループ権限] パネル	このパネルには、選択されたオブジェクトの権限がすでに割り当てられているグループ、およびその権限レベルが表示されます。

割り当てられているユーザ権限

手順

-
- ステップ 1** [権限] パネルでオブジェクトタイプを選択します。[ダッシュボード]、[レポート]、または[レポート定義] タイプでは、カテゴリまたはカテゴリ内のオブジェクトを選択できます。他のオブジェクトタイプでは、リストからオブジェクトを選択します。オブジェクトの権限がすでに割り当てられているユーザはすべて、[選択項目に対するユーザ権限] パネルに表示されます。
- ステップ 2** [ユーザリスト] パネルでユーザ名を選択します。
- ステップ 3** [グループの表示] をクリックして、このユーザがメンバーとなっているグループを表示します。
- ステップ 4** [権限の設定] をクリックし、このユーザに対して設定するレベル (実行、書き込み) にチェックを入れ、[OK] をクリックします。

[選択項目のすべての権限] パネルが更新され、ステップ 3 および 4 でこのユーザについて追加または変更したユーザ権限が表示されます。

フィールド	説明
[権限] パネル (上部左)	ドロップダウン矢印をクリックして、権限を設定するオブジェクトの種類を選択します。オプションは、[データソース]、[レポート定義]、[レポート]、[ダッシュボード]、[値リスト]、[コレクション]、[システムコレクション] です。 オブジェクトタイプを選択すると、パネルが更新され、そのオブジェクトの項目またはカテゴリのリストが表示されます。
[ユーザリスト] パネル (上部右)	このパネルには、現在のユーザが表示されます。リストのフィルタリングや、ユーザ名 (1 つまたは複数) の選択に使用します。
[グループの表示] ボタン	このボタンをクリックすると、[選択済みユーザのすべてのグループ] パネルが表示されます。
[選択済みユーザのすべてのグループ] パネル (下部右)	このパネルには、上にある [ユーザリスト] パネルでハイライトされているユーザ名がメンバーとなっている、すべてのグループが表示されます。
[権限の設定] ボタン	このボタンをクリックするとダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスで、オブジェクトの権限レベル (実行、書き込み) を選択します。
[選択項目のすべての権限] パネル	このパネルには、そのオブジェクトに対する権限を所持しているユーザ、およびそれらのユーザが所持している権限のレベルが表示されます。

(注) オブジェクトの所有者の権限は変更できません。所有者は常にオブジェクトの書き込み権限を持っています。たとえば、ユーザがレポート 1 の所有者である場合、そのユーザはレポート 1 の書き込み権限を持ち、他の誰もその権限を実行権限に変更することはできません。

権限について

ユーザの役割は人に割り当てられますが、権限はオブジェクトに割り当てられます。Unified Intelligence Center オブジェクトには、ダッシュボード、レポート、レポート定義、データソース、カテゴリ、値リスト、およびコレクションがあります。

権限：

- **実行**：ユーザがオブジェクトに対する実行権限を持っている場合、そのユーザはオブジェクトに応じて操作を実行できます。

たとえば、実行権限を持つユーザは、レポートを実行、印刷、および更新でき、ダッシュボードを開いて更新でき、ダッシュボードスライドショーを実行でき、値リストクエリーを表示できます。実行権限には読み取り権限が含まれます。

- **書き込み**：ユーザがオブジェクトに対する書き込み権限を持っている場合、そのユーザはそのオブジェクトを変更、名前変更、または削除できます。たとえば、書き込み権限を持つユーザは、レポートを名前を付けて保存、インポート、およびエクスポートでき、データソースを編集でき、カスタム値リストを削除できます。書き込み権限には実行権限と読み取り権限も含まれます。



(注) オブジェクトの権限を設定する際に、これらのチェックボックスを1つも選択しなかった場合、ユーザはそのオブジェクトに対するアクセス権限を一切持ちません。

Unified Intelligence Center のすべてのカテゴリ ツリーでは、レポート、レポート定義、ダッシュボードの各ルールを使用できます。

- エンティティを削除する場合、エンティティとエンティティの親カテゴリの書き込み権限が必要です。
- カテゴリを削除するには、カテゴリ、カテゴリの親、およびそのカテゴリに所属するすべてのカテゴリまたはエンティティの書き込み権限が必要です。
- ユーザは、エンティティを編集または保存するだけなら、すぐ上の親カテゴリの書き込み権限がなくても可能です。
- エンティティの書き込み権限が有効になっていない場合には、ユーザが使用できるのは [名前を付けて保存] 機能のみです。
- [インポートしたレポート定義] 内のカテゴリ所有者は、管理者から [インポートしたレポート定義] カテゴリに対する明示的な書き込み権限を与えられている場合、カテゴリを削除できます。

権限は組み合わせられ、最高レベルの権限が適用されます。

ユーザがオブジェクトに対する権限を取得する方法は1つではありません。権限は、[すべてのユーザ] グループ、[デフォルトのグループ] ([マイグループ])、またはセキュリティ管理者により割り当てられた権限から継承できます。ユーザがオブジェクトにアクセスする場合には、これらすべての権限のうち、最も高いレベルの権限が使用されます。

ユーザの役割および権限

ユーザの役割を使用すれば、その役割に対応するドロワーを「開く」ことができます。実行権限を所持している場合、そのドロワーに対応したオブジェクトを作成できます。たとえば、ダッシュボード作成者の場合、[利用可能なダッシュボード] ページでダッシュボードを作成できます。

オブジェクトを作成すると、そのオブジェクトの所有者になります。オブジェクトの書き込み権限を所持している場合、[すべてのユーザ] および所属グループ内の各ユーザにそのオブジェクトの権限を設定できます。

まだ処理中で完成していないオブジェクトに他のユーザがアクセスできないようにするには、[すべてのユーザ] と [グループ] の両方のすべての権限をオフにして、「プライベート」にします。

オブジェクトの準備ができたなら、デフォルト グループ ([マイグループ]) の権限を [実行] または [書き込み] に設定します。たとえば、自身のグループにダッシュボードを作成し、そのダッシュボードにメモを追加した場合、そのメモをグループ内の他の人が更新できるように設定できます。

自分自身がダッシュボード作成者であっても、[利用可能なダッシュボード] ページに他のダッシュボード作成者によって作成された (所有された) ダッシュボードが含まれる場合、グループの権限や、それぞれのダッシュボードに対して所有者が設定したオブジェクトレベルの権限によっては、それらのダッシュボードを表示できないことがあります。

ユーザグループについて

ユーザグループとは、セキュリティ管理者による Unified Intelligence Center 機能の分割を可能にする構成概念です。

複数のユーザがダッシュボードやレポートに対して同一のアクセス権を必要とする場合や、ユーザが地域または組織要件に応じて異なる権限や機能を必要とする場合には、ユーザグループを作成すると、ユーザのプロビジョニングを迅速に行うことができます。

ユーザグループは、データベース内でのデータの保存方法には影響しません。ユーザグループは、グループのすべてのユーザメンバーに一度の操作で権限を割り当てる目的のみに使用されます。ユーザグループを使用すれば、ユーザごとに同じ操作を繰り返す必要がありません。

システム定義の [すべてのユーザ] グループ

ユーザはすべて自動的に、システム定義の [すべてのユーザ] グループのメンバーになります。

[すべてのユーザ] グループは、常に [ユーザグループの管理] ウィンドウに表示されます。セキュリティ管理者はこのグループを削除することはできません。

システム定義の管理者ユーザグループ

セキュリティ管理者は、自動的にシステム定義の管理者グループのメンバーとなり、他のセキュリティ管理者を追加できます。

セキュリティ管理者を追加する場合は、管理者グループに追加する必要があります。役割を割り当てるだけで自動的にこのグループのメンバーになるわけではありません。

カスタマー定義のユーザグループ

セキュリティ管理者は任意の数のユーザグループを作成し、それらのグループにユーザを追加できます。これらの他のユーザグループから、1つのユーザグループが、そのユーザのグループ ([マイグループ] と呼ばれます) として指定されます。

デフォルトのグループ

カスタマー定義のグループを作成したら、セキュリティ管理者は、これらのグループの複数にユーザを追加することができ、そのうちの1つをそのユーザのデフォルトグループ ([マイグループ]) として設定できます。[すべてのユーザ] グループをデフォルトのグループとして選択することもできます。

オブジェクトの所有者は、そのグループ、および [すべてのユーザ] グループに権限を設定できます。[ユーザ権限] ページで他のグループまたは個々のユーザに追加の権限を設定できるのは、セキュリティ管理者のみです。オブジェクトに対するユーザのアクセス権限は、ユーザがさまざまな方法で得られる権限の中で最高レベルの権限です。

グループと子グループ

グループと子グループのルール

- 1つのグループを親グループと子グループの両方に指定できます。たとえば、グループ2がグループ1の子である場合、グループ2をグループ3の親にすることもできます。
- グループは子グループを持つ必要はありません。
- グループには、子グループをいくつでも指定できます。
- 子グループは、自分の親グループの親にはなれず、親グループは自分の子グループの子にはなれません。たとえば、グループ3がグループ1および2の子である場合、グループ3はグループ1の親にもグループ2の親にもなれません。
- グループの子には、グループとユーザのどちらでも指定できます。たとえば、グループ2をグループ1の子にすることも、ユーザ Lee をグループ1の子にすることも可能です。
- 親グループの指定は必須ではありません。
- 子グループは自身の親グループのメンバーを継承しません。あるグループのメンバーとしてユーザを追加しても、ユーザはそのグループの子のメンバーにはなりません。たとえば、グループ2とグループ3がグループ1の子であり、セキュリティ管理者がグループ1のメンバーとしてユーザ A を追加した場合、ユーザ A が自動的にグループ2やグループ3のメンバーになるわけではありません。ユーザ A をグループ2のメンバーにするには、セキュリティ管理者がユーザ A をグループ2のメンバーとして追加する必要があります。

選択した権限で実行

セキュリティ管理者は [ユーザリスト] ページで名前を選択し、[選択した権限で実行] をクリックできます。このようにすると、選択されたユーザがログインしたときのインターフェイスが反映され、Unified Intelligence Center の Web ページが更新されます。

このツールを使用し、ユーザの役割と権限が正しく設定されていることを確認します。



- (注)
- [選択した権限で実行] を使用すると、ページの最上部に自分のログイン ID と [選択した権限で実行] に使用したユーザの ID の両方が表示されます。
 - 自分自身に対しては [選択した権限で実行] 機能を使用できません。
 - [選択した権限で実行] 機能は、1 レベルのユーザについてのみ使用できます。セキュリティ管理者が、ユーザ A の権限で実行し、さらにユーザ A としてユーザ B の権限で実行することはできません。

[選択した権限で実行] モードを終了するには、ページの上部にある [選択した権限で実行] を停止] をクリックします。

Cisco Unified Intelligence Center の監査証跡ロギング

Unified Intelligence Center は、監査証跡ロギングをサポートするようになりました。この機能を使用すれば、Unified Intelligence Center サーバのエントリティに対して実行される作成、更新、変更、および削除に関連したトランザクションの一連の監査記録を確認できます。監査証跡は、監査証跡ストックレポートを使用して表示できます。デフォルトでは、この機能にアクセスしてこの機能を表示することができるのはシステム管理者のみです。ただしシステム管理者は、他の Unified Intelligence Center ユーザにこの機能の使用権限を与えることもできます。



- (注) 監査証跡レポートのローカリゼーションはサポートされていません。

Unified Intelligence Center での監査証跡ロギングの表示

手順

- ステップ 1** Unified Intelligence Center レポート インターフェイスにログインします。
- ステップ 2** [レポート] > [ストック] > [Intelligence Center 管理者] の順に移動して、[監査証跡] をクリックします。[監査証跡レポートフィルタ] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** 必要なフィルタ基準を指定し、[実行] をクリックします。指定されたフィルタ基準に基づいて監査証跡レポートが表示されます。

監査証跡レポート

[ビュー]: このレポートには、[非グループ化]、[Groupby-エンティティ名]、[Groupby-ユーザ名]の3つのグリッドビューがあります。

[グループ化]: このレポートには、ユーザとエンティティ名でグループ化されソートされた2つのグループ化ビューがあります。3番目のビューは、グループ化されておらず、このレポートのデフォルトビューでもあります。

[値リスト]: [CUICユーザ]、[CUIC操作]、[CUICエンティティタイプ]。

データを取得するデータベーススキーマテーブル:

- CUICAUDITLOG
- CUICLOGEDENTITY

監査証跡レポート グリッドビューの現在の各フィールド

現在のフィールドとは、ストックテンプレートから生成されるレポートグリッドビューにデフォルトで表示されるフィールドです。これらのフィールドは変更できます。

以下の表は、現在のフィールドをストックテンプレートにデフォルトで配置される順（左から右）に示したものです。

列 (フィールド)	説明
[イベント時間]	ユーザが Unified Intelligence Center システムで操作を行った日時。
[ユーザ]	その特定の操作を実行したユーザのドメイン名とユーザ ID。
[操作]	作成、保存、更新、インポート、エクスポートなど、ユーザが行った操作。
[エンティティタイプ]	ユーザが操作を実行したエンティティのタイプ。
[エンティティ名]	ユーザがアクセスした特定エンティティの名前。
[ステータス]	操作のステータス。成功または失敗。
[説明]	実行した操作の詳細な説明。
[RunAsユーザ]	その特定の操作を実行した RunAs ユーザのユーザ ID。

列 (フィールド)	説明
[サーバIP]	Unified Intelligence Center サーバの IP アドレス。
[サーバ名]	Unified Intelligence Center サーバのホスト名。

サンプル監査証跡レポート

次の図は、監査証跡レポート テンプレートから生成されたレポートのサンプルです。

図 8: サンプル監査証跡レポート

Event Time	User	Operation	Entity Type	Entity Name	Status	Description	RunAs User	Server
12/1/11 7:19:13 PM	CUIC\Administrator	CREATE	DASHBOARD	demo > demo_dash	SUCCESS	User CUIC\Administrator created dashboard demo_dash at Thu Dec 01 19:19:13 IST 2011	CUIC\Administrator	10.78.5
12/2/11 2:11:26 PM	CUIC\Administrator	CREATE	SCHEDULER	TestSch_SchedulerCsvFileTest_FF_35634	SUCCESS	User CUIC\Administrator created scheduler TestSch_SchedulerCsvFileTest_FF_35634 at Fri Dec 02 14:11:26 IST 2011	CUIC\Administrator	10.78.5
12/2/11 2:11:58 PM	CUIC\Administrator	RUN_NOW	SCHEDULER	TestSch_SchedulerCsvFileTest_FF_35634	SUCCESS	User CUIC\Administrator ran scheduler TestSch_SchedulerCsvFileTest_FF_35634 at Fri Dec 02 14:11:58 IST 2011	CUIC\Administrator	10.78.5
12/2/11 2:13:15 PM	CUIC\Administrator	DELETE	SCHEDULER	TestSch_SchedulerCsvFileTest_FF_35634	SUCCESS	User CUIC\Administrator deleted scheduler TestSch_SchedulerCsvFileTest_FF_35634 at Fri Dec 02 14:13:15 IST 2011	CUIC\Administrator	10.78.5
12/2/11 2:14:33 PM	CUIC\Administrator	CREATE	SCHEDULER	TestSch_SchedulerCsvFileTest_FF_27293	SUCCESS	User CUIC\Administrator created scheduler TestSch_SchedulerCsvFileTest_FF_27293 at Fri Dec 02 14:14:33 IST 2011	CUIC\Administrator	10.78.5
12/2/11 2:15:05 PM	CUIC\Administrator	RUN_NOW	SCHEDULER	TestSch_SchedulerCsvFileTest_FF_27293	SUCCESS	User CUIC\Administrator ran scheduler TestSch_SchedulerCsvFileTest_FF_27293 at Fri Dec 02 14:15:05 IST 2011	CUIC\Administrator	10.78.5

34:5527

セキュリティに関するベスト プラクティス

ユーザを、1つまたは複数の他のグループのメンバーにする場合、これらのグループの1つをユーザのデフォルトグループにし、デフォルトグループの各権限を、[すべてのユーザ]グループの権限より高く設定します。

デフォルトグループの権限の方が高いので、[すべてのユーザ]グループの各権限より優先されま
す。個々のユーザ権限は、グループ権限より優先されます。



第 8 章

スケジュールラ

- [スケジュール リスト, 65 ページ](#)
- [レポートのスケジュールの作成, 66 ページ](#)
- [スケジュール済みレポートのメール送信の設定, 67 ページ](#)
- [リモート ロケーションへのレポート保存の設定, 68 ページ](#)

スケジュール リスト

[スケジュール リスト] ページで、次の操作を実行できます。

- **[フィルタ][クリア]**：リストを絞り込むには、1つ以上の文字を入力して**[フィルタ]**をクリックします。**[クリア]**をクリックして、フィルタを解除します。
- **[作成]**：新しいスケジュールを定義するための空白のフィールドが表示された、レポートスケジュールの**[作成/編集]** ページが開きます。このページを使用し、レポートを電子メールで送信するためのスケジュールを作成または編集したり、ダッシュボードに表示したり、リモート ロケーションに CSV ファイルを保存したりできます。詳細については、次を参照してください。
 - [レポートのスケジュールの作成, \(66 ページ\)](#)
 - [スケジュール済みレポートのメール送信の設定, \(67 ページ\)](#)
 - [リモート ロケーションへのレポート保存の設定, \(68 ページ\)](#)
- **[編集]**：行が選択されると有効になり、レポートスケジュールの**[作成/編集]** ページが開きます。このページで、スケジュールを変更できます。
- **[削除]**：行が選択されているときに有効になります。確認のプロンプトが表示された後、スケジュールが削除されます。スケジュールが削除された場合、スケジュールを開こうとするとエラーが表示されます。ただし、スケジュールが削除されたレポートと同じ日時範囲のレポートを実行することによって、データを取得できます。

- [有効]：スケジュールを有効にします。
- [無効]：スケジュールを無効にします。
- [今すぐ実行]：スケジュール設定されたレポートをすぐに実行します。スケジュール済みの次のジョブには影響しません。
- [更新]：スケジュールリスト ページを更新し、変更内容を反映します。
- [ヘルプ]：オンライン ヘルプを開きます。
- [X]：ページを閉じます。

レポートのスケジュールの作成

次の手順でレポートのスケジュールを作成します。



(注) ライブ データではスケジュール設定をサポートしていません。

手順

- ステップ 1** [スケジュールラ] で [作成] をクリックします。
- ステップ 2** [全般設定] タブで、スケジュール設定するレポートの [スケジュール名] を入力します。
- ステップ 3** [レポート] ドロップダウン メニューを使用してレポートを選択します。
- ステップ 4** [フィルタの設定] チェックボックスをオンにして、フィルタを設定します。デフォルトのフィルタを使用する場合は、チェックボックスをオンにしないでください。
- ステップ 5** [フィルタ条件の設定] リンクをクリックして、フィルタ設定ページに移動します。
(注) 詳細については、[フィルタのタイプ](#)、(28 ページ) を参照してください。
- ステップ 6** [期間] セクションでカレンダー アイコンをクリックして、[開始日] と [終了日] を選択します。
- ステップ 7** [反復] セクションで、スケジュール設定するレポートの頻度を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。
- [1回]：レポートを生成する時刻を指定します。
 - [毎日]：レポートを生成する日数を指定します。
 - [毎週]：レポートを生成する週数と曜日を指定します。
 - [毎月]：レポートを生成する日と月数を指定します。
(注) [最終] を使用すると、月末日を指定できません。
- [頻度] セクションで、スケジュール設定した日にレポートを生成する回数を指定します。

ステップ 8 [保存] をクリックします。

スケジュール済みレポートのメール送信の設定

[スケジュール] の [メール] タブをクリックして、スケジュール済みレポートをメールで送信するためのスケジュールを設定します。

はじめる前に

管理コンソールでメール サーバを設定します。管理者に連絡してサポートを受けるか、『Cisco Unified Intelligence Center Administration Guide』を参照してください。

手順

- ステップ 1** [メールの配信] フィールドで、[追加] をクリックし、受信者のメールアドレスを入力します。
ヒント 複数の受信者を追加するには、ステップ 1 を繰り返します。
- ステップ 2** [メールビュー] ドロップダウンメニューを使用して、メールで送信するレポートのビューを選択します。
(注) [グリッド] のタイプのビューは選択以外には使用できません。
- ステップ 3** [メールの件名] フィールドに、件名行のテキストを入力します。
- ステップ 4** [ファイルタイプ] ドロップダウンメニューを使用して、ファイルのタイプを選択します。次のいずれかを選択します。
- [インラインHTML] : HTML 書式でレポートを送信します。
 - 履歴レポートには、8000 行の上限があります。
 - リアルタイム レポートには、3000 行の上限があります。
 - [XLS] : Microsoft Excel の添付ファイルとしてレポートを送信します。
 - 履歴レポートには、8000 行の上限があります。
 - リアルタイム レポートには、3000 行の上限があります。
 - [PDF] : PDF の添付ファイルとしてレポートを送信します。
PDF の添付ファイルには次の制限があります。
 - 生成した PDF は横向きか縦向きのどちらかになります。横向きがデフォルトの設定です。

- 生成された PDF では標準フォントサイズが使用されます。これは横向きでは 10 ピクセル、縦向きでは 8 ピクセルです。PDF では、グリッドビューエディタで設定されたフォントサイズが無視され、プリンタに適したフォント出力が維持されます。
- 生成された PDF では、選択された向きのページ内に収まる行が保持されます。ページ内に収まらない行は切り捨てられます。
- PDF の添付ファイルでは、1000 行のみがサポートされます。スケジュール済みレポートが 1000 行を超える場合には、メールメッセージが送信されます。
- 生成された PDF では列のワードラップがサポートされていません。長いテキストの場合には、グリッドエディタで列の幅をカスタマイズしてオーバーラップを回避できます。ただし、この結果、PDF で表示される列数が少なくなる可能性があります。

ステップ 5 [保存] をクリックします。

リモート ロケーションへのレポート保存の設定

スケジューラで、[リモートロケーションに保存] タブをクリックしてレポートを保存します。

手順

- ステップ 1** [プロトコル] ドロップダウンリストから、[SFTP] を選択してリモートロケーションへのセキュア接続を確立します。
 - ステップ 2** [レポートビュー] ドロップダウンリストから、保存するレポートのビューを選択します。
 - ステップ 3** [ホスト] フィールドに、リモートロケーションの IP アドレスを入力します。
 - ステップ 4** [ポート] に、SFTP のポート番号を入力します。
(注) 使用されるデフォルトのポート番号は、22 です。
 - ステップ 5** [ユーザ名] に、ホストのユーザ名を入力します。
 - ステップ 6** [パスワード] に、ホストのパスワードを入力します。
 - ステップ 7** [ディレクトリパス] フィールドに、.csv ファイルを保存するホスト上のパスを入力します。
 - ステップ 8** [保存] をクリックします。
-



索引

か

書き込み権限 [57](#)
管理者ユーザグループ [59](#)

く

グループ [59](#)

け

権限 [57](#)
ユーザグループ [57](#)

し

実行権限 [57](#)

す

すべてのユーザグループ [59](#)

せ

セキュリティ [63](#)
 ベストプラクティス [63](#)
選択した権限で実行 [60](#)

へ

ベストプラクティス [63](#)
セキュリティ [63](#)

ゆ

ユーザ [60](#)
 選択した権限で実行 [60](#)
ユーザグループ [57, 59](#)
 管理者ユーザグループ [59](#)
 グループ [59](#)
 権限 [57](#)
 子グループ [59](#)
ユーザ権限 [57](#)
 書き込み、読み取り、および実行 [57](#)

よ

読み取り権限 [57](#)

